

弓削通信

発行責任者
愛媛県越智郡弓削町
土生318-2 平山和昭
電話：0897-77-3072

あけまして おめでとーうございます

●きょうは第2回初夢新春大放談です。アルコトでもナイコトでも大いに語って笑っていただきたいと思ひます。

おしゃべり大得意(笑)
●笑う門には何とかがときます。でも世のなか、おかしくて笑えないこといっぱいあります。

あるある。(笑い)
●前回は九人でした。皆特定されちゃったそうです。(笑い) 今回は、エート二五人です。またまた優れた推理力を発揮して特定していただきます。全員正解の方にはビックなお年玉付きです。ただし、ここにいない人は当然駄目です。読者だけ!

商品は何ですか。
●世界旅行!
ヒヤッホー!
●それではまず乾杯!
カンパニー!(ワイワイガヤガヤ時がたつ)

●弓削町でも海外旅行をする人が増えました。いつも思うんですけど議員や商工会の人たち、あるいは役場の職員など、僅とはいえお金を使うならきちんと広報で見聞録でも載せてほしいもんです。

土産話ききたいもーん。(笑い)
●よその広報では必ず視察した人が住民にフィードバックしていますよ。

報告書も書けんような人が視察をしたってしょうがないでしょうに・・・
何をしてくるんだか。
まあ実体は闇の中、われらは蚊帳の外ですからね。

●弓削通信はそうじゃないですぞ。ちかごろ弓削島からカナダ島に行ってきた人がいます。感想をどうぞ。

一言、広いっ!中国へ行ったときには、広いっていても何もなかった。でも国によってはピンピン、これからだぞって意欲を感じさせるものがあったけどカナダはね、完成されているのよ。出来上がってるとい

うのかな。
あるのは余裕だけ・・・
そうそう余裕だけ。バスとかで走っているとよく分からなけれど小型機で空から観ると、山の崩れている

とこなんか一個もない。ユニボやダンブなんかもゼーんぜん走ってない。テトラはー?
ないっ!(笑い)

森とか湖とか何千年も変わってないのよ。公園いらってないのよ。公園なんか山のままで残っている。日本だったらまっすぐするじゃない、埋めて。ちがう、そのまま芝生。そこに木が立っている。人がいっばいいない。ゴミゴミしてない。

●ハイ、つぎあなた。
わたしがみたのはカナディアアンロック。こちらはナイアガラよ。感想はゆったりしている。ゆったりするゆうのは仕事もゆったりして、ホテルなんかで水が出なくなっちゃってお茶の時間とかだとまずそれをすませてから。仕事は二の次。あんなふうにはなれないわね、日本では。

すべて役場スタイルの国ってこと?(笑い)
空港の売店なんかみんな年寄りか働いていて、つまり年取ったからって邪魔者じゃなくちゃんと働く場があるのよ。飛行機の整備や大型バスの運転なんか女がガンガン働いている。

ほいじゃ働き盛りの男達はどうしているんだらう? 森イ行ってるんじゃないの、日本に売る木イ切りに行くんでしょ北米航路。

●そうなんですか?お宅は行くんでしょ北米航路。私らはね、港。バンクーバーとかね。だいたい働く男は観光地いってるとヒマはないですよ。

●木こりのはなしは? たぶんそうでしょ(笑)

●ここにふだん弓削にいない若者たちがいるのですけど、どうです弓削にかえってきませんか?
ウーン。

まあ、まあ話だからあんまり深く考えないで(笑)
●朝日新聞一月一日、愛媛版に魚島の漁協組合長、佐伯直行さんの記事が載っていたでしょう。ハイこの新聞。以前一寸だけ電話で話したことあるけど、この人松山市議を四期やって、や

れば多選はよくないって勇退して島へかえってきた。もったいなあ。

●すばらしいと言うべきでしょう!
すばらしい!(笑い)
(新聞を読んで)議会は弓削と似たようなもんです。え。

あすこは村長がエライ。佐伯さんは「議論の無いところに発展はない、政治の主人公は村民、それを忘れないようにせんといかん」と村長に話すそうですよ。

弓削のかしらの取り巻きもそういう支えになっていゝるんかしらん?
●呑むという字だろ。大けな口で支えてる・・・へへ。や、ゆうちやろ。
中学生に自分がなぜ島にかえってきたかを話してみたいのだそう。締め括りはこう、読むよ「一度は島を出て世間を知ればいい。そして帰ってきてほしい。そんな気持ちにさせる古里を大人たちがつくっておくから」
いい話ですねえ。(拍手)
外に出るからにはひとかどの仕事はしなけりゃね。で、自信もって帰ってきて、それを役立たせてほしい。
●コネが横行したり自分のことしか考へん者がさばる土地に愛着が湧くかってんだ。
若い人に乾杯しよう。
カンパニー!
●どうです?弓削の未来。今の仕事をやりたくて出ているわけだから・・・。
●仕事のこと考へたらかえられんです。
●そうでしょうねえ。
愛着とか思い出も大事だと思ふけど、やっぱり、働く場だと思ふ。
子供を育てる場、それを支える場、日本経済のシステム、社会体制を含めての構造を変えねば今のありさまは変わらないのじゃないですか。
変わらんなんて言わないで変えてほしいんだよ。若いパワーですよ。ね、変わってきたでしょう。ホラ校則だって。坊主じゃなくなっただけでしょう。やりきれん思いの小数の人が問題を表面化させつづけてきて・・・。
必ずしもいい方向ばかりとは限らんけど・・・。
●話を交えまーす(笑い)
弓削通信にもっと毒を盛ったらどうですか。
●と、いう年賀状がありまして。するどく尖らせろってのもありました。
どうも、殺しのイメージですなあ。(笑い)
テレビの見過ぎ(笑い)
●もう刀でも槍でもものつけちまうからとどん素材を

寄越してください。手始めに今回から苦情コーナーを組みます。なんでもできちゃうんだから。よこしてくださいよ、訳のわからんことに対する苦情・・・。
●町長に対する苦情とか? ハイハイもちろんです。

●「サル山は今」って芝居PTAが小学校でやったでしょう。因島の親は弓削の親たちはスゴイって褒めていますよ。でも劇団との交流会に先生をよんだら校長が蹴ったそうじゃない。理由が、参加する教師とそうでない教師がいると差別になるとかで。
なんでそうなるん?
●因島の連中もそういいましたよ。

アノー、僕もその話聞いたんですけどね、僕にはすぐわかった。弓削も同じだなあーって。校長じゃないんですよ。校長は代表でメッセージを伝えただけ。教師がしたくない。で、校長先生にいうてもらうわけ。へー。

きまった仕事以外のことやろうとすると同僚からもなんだかんだ言われるし。僕らだって生活は不便だしどこへ移っても状況は同じなら将来のことか考へたらもう僻地には行きたくない。正直なところ・・・。
寂しいけどそれが現実でしょうね。
●これが愛媛県の普通の状態なんだよねえ。

●さて、またまた話し変わってこのあそびのページ、これは尾道の登校拒否をしている子供が自分らだけで編集発行しているんだけど、すごいよこのモンらのバイタリテイ。もう、目茶メタに生き生きしている。登校拒否の子の親が書いてるけど「学校というレールから外れることなどなんでもない。生きるというレールを外れてしまおう子供がいるのだ。親には親の生き方があるように、子供の生き方は子供自身が積み上げていくもの。「あなたの為なのよ」は親自身の安心剤でしかない。清輝君のように、生命ギリギリのところまで学校に通い続けている子供たちが「気がかかる」とあります・・・。
親も苦しんで苦しんでその心境に至ったんでしょね。
●先生、踏ん張ってほしいと思います。親もね。
●色々皆さんに支えていただき今日までできました。もっともっと憎まれることで存在感のある弓削通信になります。応援してくださいね。



先生、踏ん張って!
子どもたち、のんびりいこうや。
いい旅しよう。

1995年 初夢新春 放談

郷土作家の作品展(所蔵品展併設)
織田恭一/友宗杉径二人展

(美術振興小林和作基金奨励賞受賞者)



尾道暮雪 織田恭一

1995年1月4日(水) - 2月19日(日)

月曜休館 午前9時 - 午後5時(入館は午後4時30分まで)
 1月4日(水)のみ午前10時開館 1月18日(月)は開館 翌日17日(火)は休館

主催=尾道市立美術館
 入館料=大人300円(250円)/高校生200円(150円)/小・中学生は無料()内は20名以上の団体料金

織田恭一さん(昭和4年生まれ)は、弓削小学校出身。光風会。日展入選23回。尾道市在住。弓削小講堂に作品が展示されています。



尾道市立美術館
 〒722 広島県尾道市西土堂9(17-19)千光寺公園内
 TEL.0846(23)2281

苦情

我家では、畑に小さな遊び場があります。どうやって知ったのか、使用する顔ぶれは二十数人。(うち四人は頼んできた)それはいいのです。でも広場の中にある物を壊したまま知らんふり。水道管を折られたのも一度や二度ではありません。なぜ「すみません」の連絡がないのですか? 私おこっています。こんなのでは、使用おことわりです。(前田)

★『あたり』の橋本氏
 万葉集を愛する人です。人間はアン餅のように常に「風邪」を持っていて薄皮である健康が弱るとアンコなる風邪が出てくる。そして風よ吹け (平山)

双眼鏡

★新年にあたりまた紙面を変更しました
 ★縦か横、それしかないわけがないのに斜めだつて裏返しだつて出るのに変わるはムツかしい。弓削通信のテーマです★本年は「文系」に挑戦。「歌のこころ」の平山さんは東京在住。七二才。

私の迷文が二人余りの人の目に晒されているのかと思うと、ゾッとします。快感と怖さで・・・。TVをつければ、いじめ、自殺、おかげで他人ごとではないと、親は異常に神経質になり、はれ物にでもさわっているの如く、我が子に接か・・・いやいやその位していたほうがいいのだと、さまざま意見が私のまわりでとびかかっています。だけれど本当は、こどもがどう思っているのか、どうしてそうなったのかをしっかりと聞いてやる必要があるのではないだろうか、私も少々困惑しています。それにしても高田君はすごい。こうした人の声が大

おたよりから

切に通る、世の中であってほしいと思います。
 因島おやこ劇場 青木喜代子

最近では女の人のほうがよい仕事をして、いさぎよく生きていくように思えます。平山忠義様の文章、いっぱいお読みください。主人の弟は私と同じ年なので五十を過ぎて毎日葉書一枚四百字の中で主題を述べ切る、この修業を続けています。「老イテ衰へズ、死シテ朽チズ」とか言ってます。生きることを考えることが多くなりました。すっきりとした。よけいなぜい肉をさっぱりそぎおとし、そぎおとし、大切なものを守ってみきわめて生きていきたいと思っています。 (東京野田 三宅静可)

体全体で美しい夜景を観ている感覚に私は今、ひたっている。昨年11月のある日、思いがけない旅が舞い込んできた。決心するまでに、そう時間はいらなかった。

島外見聞録

メープルリーフの国(1)
 塩見 美保子



レスターBピアソン国際空港。カナダ最大の都市トロントに間違いなくいま私はいるのです。オンタリオ湖の北岸に、たった二百年の間で建設された多くの異文化と混血したことで独特の華やかさと活気にあふれ、全てをやさしく受け入れてくれる街にみえた。リムジンバスに乗ること三十分。どこまでも広い広い光の中をホテルのあるダウンタウンへと向かう。メトロポリタン、こんな言葉が好奇心をかき立てる。ホテルでチェックイン後、朝の散歩を終え、今日は終日ナイアガラフォールズ

時差のせいかわベッドに倒れるように寝てしまう。朝モーニングコールよりも早く目ざめる。朝食をすませさっそく散歩にと出かける。ダウンタウンに残るヴィクトリア調の華麗な建物やエレガントな家。当時そのままの服装をした人々が今にも出てきそう。絵本の中に居るような床屋のおじいさんが手を振って笑ってくれる。大きな広場、小さな広場、石のオブジェ。巨大なブロンズ像がヘンリームーアの作品だったり、古城のような旧市庁舎の建物。食べ物をねだる雪の上の黒いリス・・・何もかもが絵になる。

観光。トロントからバスで所用二時間のナイアガラ滝へと向かう。中学生の頃習った五大湖のひとつエリー湖からもう一つの湖オンタリオ湖に流れ出るナイアガラ川のちょうど中間点にあり幅は六七五Mもあるという。毎分水量一億五千五百万トンという途方もない量の水。世界の水の二十%がここにあるのだそうだ。まるで生きているみたいに空高く真っ白に舞い上がる水しぶき。地の奥深く落ち込んでいくあの音を何と表現すればいいのだろう。ついこの夏、苦しい断水を経験し、時間をかけパケツに水を溜めた身には信じられない水の量だった。

因島おやこ劇場
 第19回例会
お祭りどん・お
 1995年 1月18日(水)
 午後6:30~
 因島市民会館
 因島おやこ劇場事務局 TEL (08452)2-4166
 弓削は前田さん77-2569

お祭りどん・お
 田舎の口どま
 いさかたり芝居
 下駄タマ
 獅子舞・神楽
 田舎の口どま
 いさかたり芝居
 下駄タマ
 獅子舞・神楽

歌のこころ

平山忠義

平成五年の年賀状に記した私の拙い一首。
 もう長いこと政界は不祥事件つづきなのに、いっこうに浄化されず、多数党政権は派閥間での首班タライまわしでお茶を濁すだけ。片や弱小野党は何でもハンタイを叫ぶばかりで実効のある手は打てない。国民には厭世(あきらめ)ならぬ厭政ムードが広がり、選挙の投票率は下がるばかり。おまけにバブルのはじけた経済界は不況の底冷え続き・・・。そんな暗い世の中でも十二月月たてば年が明けて新年になる。そして、新年には何かいいことがありそうな気がしてくる。そういう素朴な人情こそが民衆の心というものである。何度期待はずれに会っても、人々は新年に何がしかの期待感をもって再出発を試みる。それが民衆の自浄力であり、底力である。まるで、汚されても汚されてもそれを浄化しながら流れてつづける大河のように。その自浄力はわが民族にもまだ残っている。それを待みとして自分も一個のフィルターとしてありつづけた。

民族の 自浄のちから
 なほ待み あたらしき年の 来たるに對す
 平山忠義

弓削通信

発行責任者 町削郡智越県媛愛
昭和平山 2-318 生土
電話: 0897-77-3072

裸の王様

本年一月十日頃、町内各戸に配布された弓削町役場・広報班発「広報一月号の訂正について」はおもしろかった。一口で言う、広報にのった町長の年頭挨拶文にミスプリントがあった、というだけのものだが、通常はよほどのことでない限りこの程度の誤植は翌月号で訂正する。現にそうしてきた。参考のために全文を紹介しておく。

さて、何度読みかえしてもにわかに論旨全体の大意を取り違えるおそれはないように思える。そこで無い知恵を絞り推理してみる。要は、訂正に伴う本文の内容の変化よりも、担当者の(あるいは印刷所の)不手際を訂正してみせたい、という実績が欲しかったのではないか? もちろん事実とは言えぬ。邪推である。

「こちら」うる災 弓削通信です

「阪神大震災」が起きたのは一月十七日未明。時あたかも愛媛県知事選挙たけなわの頃あの「防災無線設備」は何の為にあるかと思わせる出来事もあった。「こちら防災、弓削町役場で。二十二日は投票日です。不在者投票を受け付けています」との呼びかけは朝に晩に

「……下記の方が転入されましたから一月分からの給食費の徴収をお願い致します」「えー??!!」という声が聞えたのかどうか二十五日に沙汰やみとなり、文書は空しく集金係の手に残った。これには後日譚がつく。二月五日、少年式の日、町長は「弓削町への転入者は二名だ。教育委員会は給食費を徴収するように通知をだしてはいない。役員をしている母親の勘違いではないのか」と善処を求めていた地元議員に答えたそうだ。(議員談)

これらミスティアスな一連の出来事は次のように書き替えてみたらどうだろうか? 「人間は、過ぎてみれば「しまった」と思うことをしなさい。王がかわらぬ限りグロテスクな笑いをふりまくその姿をみたがる屈折した楽しみを民が持つてしまい、凶らずも君民一心同体になるということに尽きる。王に恥をかかせる部下、そんな部下にした王、その王を推し戴き、陰口の発生源として特定されることは極度に恐れるわりには、せせせと笑い嘲を語り、ばらまくことを楽しむ民。逆説的には逞しい民衆のエネルギーとの見方もあえるが、自嘲と自戒をこめて言えば、そのどこを取っても目くそ、鼻くそ笑いの類だ。いずれ、まるで自分の尻を追っかけ続けバターになっちゃった、チビクロサンボの虎のように誰かに喰われてしまっただけだ。」と。

広報一月号の訂正について

広報一月号「年頭のあいさつ」に次の誤りがありましたので、訂正いたします。

- 二ページ二段目十七行(誤) 音忠御歌を持って
- (正) 音忠御歌を持って

(年頭のあいさつより抜粋) 二ページ一段目最終行から

地方分権とは、地方が自らの責任と判断で行政を行うことにあると思いますが、この流れには、期待と不安が交錯しております。

弓削町役場 広報班

質素な小屋と人の良さそうな親子が迎えてくれた。セメントの残る板、クギ穴のある柱、寄せ集めのサイズのちがう窓にセンス良くかけられたカーテン。張り合わせたテーブルに丁寧な仕上がったペンキの色。リサイクルされた小屋に、はやる心を押さえながらおしゃまする。

朝の散歩の時は華麗な建物に感動したばかりなのにそんな気持ちふっ飛んでしまっすっきりこの小屋に魅了されてしまった。

「ここでパッチワークがしたい!」

日本人が忘れ捨ててしまったものが、この小屋にはいっぱいある。メープルシロップ小屋の中に開拓の国カナダが全部あるように思えた。

「何もここまで高くしなくても・・・」ちょっとおしゃれしてトロントの街を一望でき

シンプルな木が立っている。冬を間近に迎えようとしている林の中を、バスは気持ち良く走る。

島外見聞録

メープルリーフの国(2) 塩見 美保子



「年頭のあいさつより抜粋」

期待は、身近で、柔軟にそして素早く、地域に適応した自主的な行政が、できるだろうということであり、不安は、権限に見合う自らの能力とその責任分担機能、どのように整えるか、また、一般会計予算において、歳入の八〇%以上を国、県に依存している弓削町にとって、財政措置はどうなるのか、何れも大きな問題であります。

急に変えることはいらないと思いますが、今から、戸惑うことのないよう、意欲を持ってとり組み、整えなければなりません。

「こちら」うる災 弓削通信です

「……下記の方が転入されましたから一月分からの給食費の徴収をお願い致します」「えー??!!」という声が聞えたのかどうか二十五日に沙汰やみとなり、文書は空しく集金係の手に残った。これには後日譚がつく。二月五日、少年式の日、町長は「弓削町への転入者は二名だ。教育委員会は給食費を徴収するように通知をだしてはいない。役員をしている母親の勘違いではないのか」と善処を求めていた地元議員に答えたそうだ。(議員談)

「こちら」うる災 弓削通信です

「……下記の方が転入されましたから一月分からの給食費の徴収をお願い致します」「えー??!!」という声が聞えたのかどうか二十五日に沙汰やみとなり、文書は空しく集金係の手に残った。これには後日譚がつく。二月五日、少年式の日、町長は「弓削町への転入者は二名だ。教育委員会は給食費を徴収するように通知をだしてはいない。役員をしている母親の勘違いではないのか」と善処を求めていた地元議員に答えたそうだ。(議員談)

家でねむる小中学生の学用品ありませんか

- ランドセル・通学カバン・笛
- ハーモニカ・体操服・ジャージ
- そろばん・クレヨン・絵具・筆

こわれていないか確認して洗たくして今すぐ使えるようにして送ってください

神戸市中央区楠町4-1-1 神戸市立中央体育館内 学用品受入係まで

おたよりから

弓削小学校のPTAはすごい！
 と思ったのは、福山のアマチュア劇団の『サル山は今』という劇の上演を、PTAの力で実行したことです。重井小学校ではとても考えられないことで大変刺激ある知識となりました。

私自身は学校とは離れた立場で仕事として子供たちとかかわっています。不勉強な姿勢で関わることはその子の人生に対して失礼だと思っています。かといって何が出来るかといえはやっぱりただの人ですけれど。

兵庫県南部地震に思う

地震国日本といわれる中で最も安全なのは瀬戸内海。
 弓削はその中にあり世界的安全地と今でも信じている。

一月一七日期、突然の揺れを感じた。何処か惨事が起きねばいいかとテレビを入れたら、いまの地震の速報。震源は瀬戸内海だ。

平和と安全に酔っていただけに猛烈な衝撃。速報が次々と映し出される。天はなぜ毎年日本にいろいろな形を変えた惨事を降らすのか。

泣いても笑っても自然には勝てない。しかし生きるためには何とか適応せねばならず人の力の無力さと自然の偉大さに一時呆然とした。

天地人 ④

島田 英好

どうぞ最
 少惨事で止
 まってほし
 いと念ずる
 のに、交通
 通信、輸送
 水、火力、衣食住と大きくな
 るばかり。

この寒空に子供、病人、老人を含む多くの人が生きたるためには即応の適策と行動が寸刻を争う。

昔戦場でのこと、敗戦間近い雨期のビルマ時代や北支山西時代が強烈に頭の中に蘇ってきた。

ビルマでは地理も判らぬ、四周は敵、頭上からは銃撃、地区の道は敵が待っている。炊煙は敵の目標になり、後ろからは有力な敵が迫り来る。が、留まることは死に通じ、勝つか逃げるか。負けては死ぬだけ。

自分に託された者を教え育て上げることが出来るか、自然が振り出したこの約束手形に人生を賭けて支払うことが出来るか？
 答えの出せない疑問ばかり浮かんできます。

ある本にこう書いてあります。
 『自分の可能性、自分の人生のありかを正しく理解する能力は、残念ながら多くの人が欠けているものである。何と多くの人の悲劇が然るべきときに自分自身を解明しなかったこと、自分の使命を理解しなかったこと、に端を発していることか』

私は頭の後ろがガンとなぐられたような感覚を味わいました。

隣の友軍も同じ。手持ちの武器食料は減り、茂みには猛獣や蛇がいる、だが茂みでないと部隊は空から発見され攻撃される。付近に飲水はなく捜しに出れば見付かり、そんな有様だった。しかし山西の時は日の丸を見たら部落の住民が戻ってきて何とか協力しているいろいろ物資をくれる村が多かった。なぜか私たちは戦争している相手の中国民から歓迎されているような気持ちになり、集まった村長以外からも敵の動静を知らされたことも多かった。

生きようとして皆が力を合わせれば必ず道は開ける。人の自然に対する弱さと、心を通じ力をお互いにしてお互いに助け合うときの強さは一つ事の表と裏のこときものである。

地震成金、戦争成金を考える人も多分居るだろう。だがそれを防ぐのは政治の力しかない。

一日も早く平穏が戻ることを祈るのみである。個人の力ではとても及ぶものではないが、さりとて個人が元気を元へ戻すことは無い。

困り事は生きている間中絶えることはなく、困らそうとする悪魔は絶えず人の心の隙を狙っている。防ぐには皆の協力だけ。生きるとは自分との争いでもある。

(八回目の年男)

疑問は"かりだけ" ます"行動してみよう"

「しかたなく」行動してきたことが多かった私にとってそれらの言葉は今年一番の大きな打撃のような気がしました。

「しかたなく」ではなく意欲的？に行動した中の一つに十一月の市民音楽祭参加ということがあります。

した。幼稚園児から小学六年生までの有志が『みなさんコーラス』というプログラムに無言の「手話コーラス」という演目で参加し聴く人はギョッとしたのではないかしら？(実際は歌っていたんですけど)

手話は、ろうあの人に直接教えてもらい、子供たちとも交流の場を持つことができました。実は、ろうあの子供と私の生徒である子供たちがささやかでも交流をするのも目的だったのですが、そのことは思ったより壁が厚く実現できませんでした。(ですが、あきらめてしまったわけではありません)

健常者と呼ばれている私たちの社会のほうで、障害を持った人たちから見るとよほど障害が大きいのではないかと気がつきました。

いじめによる自殺が多発しているなか、学校の教師達も教えるだけでなく子供たちの命も守る能力が強く要求される時代になってきました。命の重み、それが人間の命であっても自然や他の動物のものであっても大事に思える心を育てていかないと平和の大切さは感じ取れないのではないかと思います。

いじめの子がいて、いじめられる子がいて、それを見ている子がいて、「それはいじめだ！」と言える子がいてほしい。くらい話題になってしまいました。

二月、弓削駅伝に参加します。少年野球部チームの応援に弓削に行きます。寒い季節、朝六時三十分には重井を出発するのでふるふる震えながらいきますが、弓削に着いてからは熱気ムンムンです。町をあげてお世話してくださるので毎年感謝しています。

(因島市・重井町 村上 清美)



「手話コーラス」という演目で参加し聴く人はギョッとしたのではないかしら？(実際は歌っていたんですけど)

手話は、ろうあの人に直接教えてもらい、子供たちとも交流の場を持つことができました。実は、ろうあの子供と私の生徒である子供たちがささやかでも交流をするのも目的だったのですが、そのことは思ったより壁が厚く実現できませんでした。(ですが、あきらめてしまったわけではありません)



昔から「日の神」と崇(あが)められ「お日さん」と親しまれている太陽も今日の科学知識によれば、その中心部では猛烈な核爆発がくり返され、その温度は千五百万度、表面でさえも万物を溶かす六千度の灼熱の大火球といわれる。

だが、幸いにもわが地球からは、光速でも八分余りもかかる一億五千万キロもの遠くに離れているおかげでわれわれは太陽熱に溶かされることはない。でも、日照角度のきつい熱帯では耐え難い暑さとなる。お釈迦さまのインドで、日の沈む西方に極楽浄土を想定したのも納得が行く。日照角度のゆるやかな温帯の日本でも、昨夏の猛暑には閉口したものだ。

ところが、冬ともなるとたちまち日光が恋しい。日当たりのいい南側の窓辺で太陽に掌をかざしてみるとほんのりと血の色が透けてみえるようで、われながら愛しいとつい気分になる。

夏には厭い、冬には恋しがる身勝手なわれわれではあるが、何事も距離を置くことが必要なかもしれない。哀しみも、また、有難い親さまさえも・・・。

双眼鏡

★世は挙げて阪神大震災。「上はともかく、民衆はよくやっているよ」外国からいち早く駆けつけた救助隊員の弁です★写真は義捐活動をする弓削教会の僧。



- 大三島町 大三元 渡辺 ミカ子氏
- 岩城 岩城村民シヤベ 岩城 長、森本雅文
- 因島 阪神大震災被災者への救援活動として市民から
- 伯方 島部消防本部の今岡、阿部消防士は十九日、愛媛救助隊の一員として派遣され被災者の救出等に活躍した。二日で二名救出した。

弓削通信

発行責任者
愛媛県越智郡弓削町
平山和昭
土生318-2
電話：0897-77-3072

気になる言葉を かんがえる

ある地域で流通、流布している「言葉」はその地の文化であると言ってよいだろう。

西部 邁という物書きは、『政治家をはじめとしてあらゆる個人は「公と私」の二面的性格を有している。公の側面をすべて集団にあずけ、個人はたんなる私人に縮退して集団の裏がわでひそかに打算に励んでいるのは醜い光景である。とくに政治にあって自由討論が不可欠なのは、それをつうじて「公と私」のあいだにおけるバランス感覚を身につけるためである。しかし日本人は討論を嫌うので有名な国民である。自由討論の風習が発育することこそが望まれる』などと書いている。(歴史感覚・何が保守政治の真髓か・PHP発行)

気になる言葉ではある。こんな引用をしたからとてこれから書くことをネタに討

口が裂けてしまった

小熊秀雄

トンボは羽を押へられれば動けない
人間は口をふさがれば苦しいのだ、
わたしはさうして苦しんでゐる
サーチライトの
光りの中で
私の心も肉体も
あいつらの弾を存分に浴びた
私の口は裂けてしまった
私の口はもう人間の口の
大きさを超えた。
天と地とを併合する
自然の大きさに裂けてしまった
悪魔の口をふさぐ神はるない
歌心口をふさぐ神はるない
大きな手は何処にもない
私が歌っているのではない
自然が歌っているのだ
私が歌っているのではない
君らが私に歌はしているのだ
そして地球の上を歩いているのではない
わたしが玉乗りのやうに
地球をまはしてゐる
危険な曲芸団
身を投じてゐる
あゝ、ぐでんぐでん酔ひばり
私の言葉よ。

『ああかこうか』

殺しの言葉は よくなかった

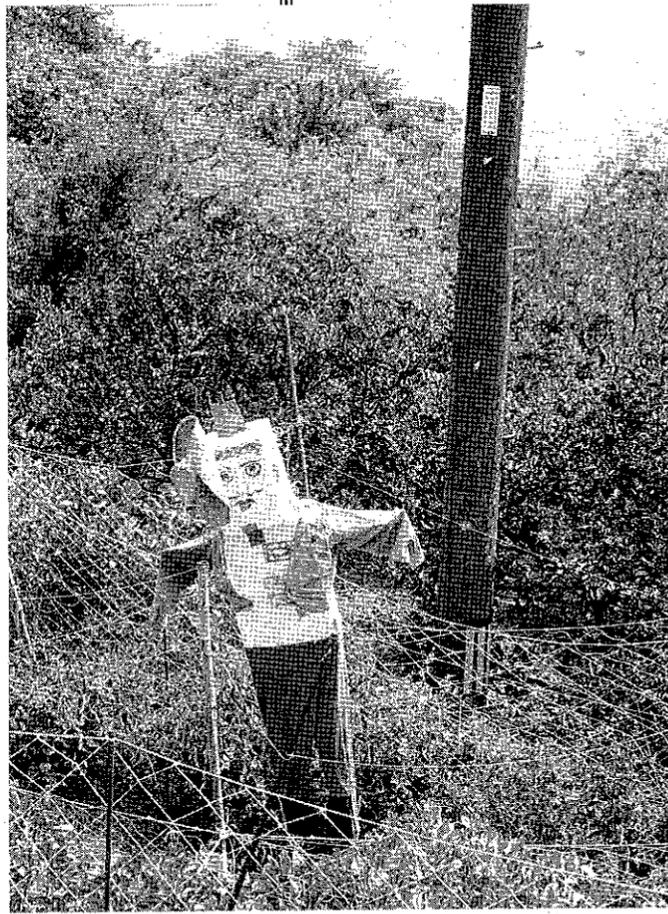
論の風が吹き荒れるとも思えないがこの地に住んで、「気になる言葉」もあるにはある。文化に水をさすことは植物への水やりに通ず、と思

あるとき、あの人とあの人も亡くなったというような話が流れた。あの人

言葉の呪縛から のがれて

なぜ間違いが生じたかといえは、人が亡くなったことを「あのひとはよくなかった」と表現する人が結構いるからだ。例えば「よくない」と聞き「よくなかった」と取り違えることは大いにありそうな話だ。ある人が病氣だつたりして「よくなかった」(よう

人の死を忌む気持は、古来「死」という言葉を直接使うことを避け、さまざま言い回しを工夫してきた。洋の東西を問わないそれは当事者の哀しみを思いやる気持ちの表現でもあり知恵であることに



ある日、狩尾にて

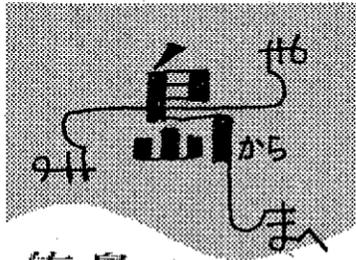
御詠歌によせて

島で生きざる

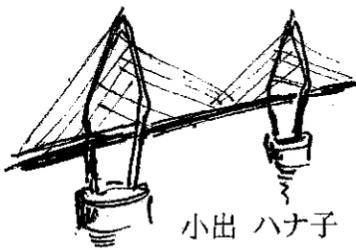
不思議な御縁で最近御詠歌を習い始めた。とは言っても年数にしたら七、八年にもなる。

「有難度や高野(たかの)の山の岩かげに大師は今もおわしますなる」

鈴鉦にのせて和讃をとなくれば御詠歌の進むにつれ八十八ヶ所の三昧功德を受くる思ひがいたします。近頃やっとな馴れも手傳って、はずかしさ



佐島



小出 ハナ子

も取れ寒業にも出られるようになった。仲々むつかしい。むつかしいことは訳らないけど、若い仲間には聞かれない御詠歌の音が出せれば偉だと思つている。

私が心に御詠歌をもとめたのは中国新聞社主催の四国八十八ヶ所詣りの時でした。四十代だった。徳島、高知、愛媛、香川の四県を二度に分けてのお詣りで、寺々の宿坊で

災害と自衛隊

災害に際して自衛隊の出動を要請するのは中々いたしものがあるらしい。

初期消火の大切さは常々言われているが、それは手近に水などがあつての話。実際は手遅れになることも多く、いつも相当のむなし努力の果てに「切り札」が出される。

もし結果はわかつているのに他の機関の助けを借りる口実づくりとしておびただしい労力が費やされているのなら、実にもったいないはない。どのみち多大な費用はかかるのだから、効率を優先させる発想のほうが大切だろう。保有の装備ではどうにもならぬ現状の島の山火事には、空からの消火が一等有効と近年の体験で確認できた。それが初期消火にも活用できないのだろうか？

防災機動力の整備や自助努力は勿論大切だ。が、何より『予防に勝る消火活動はない！』が最も有効ではある。

聞くお坊さんの御説法に感銘したことは今も鮮明に頭に残っている。事情がゆるすかぎり何度でもお詣りがしたいと心に誓ったけど、お坊さんならいざ知らずそうやすやすと足をこべる所ではない。それでも二度目は六十代でお詣りが出来た。三度目を願ふけど年齢も大台に乗ったことだし。近頃夢をみることもめっきり少なくなってきた。それでも夢を追っている。「有難度や縮小四国八十八ヶ所は弓削島また佐島にもおわしますなる南无大師遍照金剛尊」

御詠歌の一節、
「靈山(りょうぜん)の釈迦の御前(みまえ)にめぐり来てよろずの罪も消え失せにけり」
有難度うごいます。

因島おやこ劇場では三月二十一日に『私のヒロシマ』というミュージカルを企画している。「その前に少しヒロシマのことを知っておきたいね」と熱心な母親から声が上がった。すかさず日時場所、語り部まで決めてしまおう。こういうことはパッパッとリズムよく、ノリが大切だよ、と即断即決。

『ヒロシマ・沖繩を語る会』(このたびの震災で、平和な日々はあたり前と思っていた自分に気づきました)で始まる「お知らせ」も作った。目標人数は五人から五十人とこれまたアバウト。

さて当日、ひとりの教師を除く参加者はすべて戦争を知らない親

と子どもたちだった。三十五人が集まった。かたりべ役は地元因北中学の先生。先日の修学旅行で沖繩へ行かれた村上先生と六才のとき広島で原爆を体験された星野先生。参加者の中に修学旅行を終えた中二の生徒が三人いた。沖繩に行く前にはきつと歴史の勉強を重ねての出発だっただろうに帰って来ての感想は「眠かった」「たいぎかった」。

授業の枠を超え、地域の大人の体験話を聞き、大人の思いを聴いて何が変わったのだろうか? 「先生、もう一回修学旅行に行かせて!」と言った生徒の一言が印象的だった。

わたしは先生方のお話を聞いて、いかに自分が何も知らずにいたかとショックを受けた。外国でホームステイしたとき、広島から来たというと原爆のことを聞かれ、殆ど答えられなかった経験を語った参加者もいた。

あれだけ悲惨な出来事が、わずか五十年で過去の事として忘れられていくのかも...。知らず知らず平和ボケして、そのうちまたもや愛する者たちを戦場へ送り出す日がくるかもしれない。その時泣いても遅すぎる。

戦争を体験したおばあちゃん、おじいちゃんから話を聞こう。そして家族、地域で平和についてまじめに語ろうよ。すこし嫌われるかも知れないけど今一番大切なことだと思おう。それをこどもたちに伝えよう。今なら、まだ間に合う。(因島・青木喜代子)

私たちは新しい歴史の起点に立っています。

一人ミュージカル 広瀬多加代の 私のヒロシマ

どうしても伝えたい、人間のいのちの尊さを。



白い光がピカッと光って、蝶々が消えた...。舞いあがる美しい蝶の姿を追い求め、あの日の命がほしいと叫ぶ花子。1945年8月6日のヒロシマと現代を往復し、歌い、舞い、演じる感動のステージ...

作・演出 八木亮三
劇団R&C

●私のヒロシマ 日程

3/17(金)	18:30開演	中庄 老人集会所
3/18(土)	14:00開演	田能保育所
	18:30開演	三左小学校 体育館

参加券 シングル 950円・ペア 1,800円

生のお芝居を楽しむことは、子どもの感性への豊かな刺激です。テレビとはまるで別の世界です。大人も楽しめます。この楽しさを私たちのまわりのあなたにも知ってほしいと因島市内各地で公演を企画しました。

‘95広島県 子どものための 舞台芸術フェスティバル
今回は「地域公演」として実施します。地域の友だちや大人の方もご参加ください。

因島おやこ劇場ほかでもいつでも入会できます。

ワイワイ ドラマ 鬼ばなし

わたしはオエです。この日本に古くから住んでいました。さあ、さあ、さあ、太鼓と笛のひびきにのって語り、踊り、遊び、演じるあかるい舞台!

風の子 中四国

●ワイワイ ドラマ 鬼ばなし 日程

3/17(金)	18:30開演	中庄 老人集会所
3/18(土)	14:00開演	田能保育所
	18:30開演	三左小学校 体育館

参加券 シングル 950円・ペア 1,800円

「一丁前に」は俗語だが、その時の女の子の雰囲気から反射的に閃いたことばだった。正規の「一丁前に」ではユーモアが消えよう。二丁三丁の語順も、「何だ、縫いぐるみだったのか!」と気づいた時のおかしさを表わしたつもり。この歌の弾んだ調子は、その時の心の動きを素直にことばに乗せたために生まれたようだ。歌は散文ではないから調子(リズム)が大切だろう。

★岩城村で三月九日、大きな山火が発生。昨年の竹原、因島に続き三度目。もう偶然ではすまない★火をだした人たちは共通した感覚のパターンがあるようだ。経験済みの行為に対する盲信★とはいえない。日々あらたに自分を批判的に眺めるのも又難しい★気をつける。野良は昔の野良じゃない。隣の畑は導火線。(平)



一丁前に 背負ふは猫の縫ひぐるみ 姉とくとくと 弟の手を引く

平山 忠義

私たちの戦争、忍たま乱太郎。三月三十日。午前の部、九時半、午後の部、十二時半から。入場無料。農業公園シトラスパークが着工した。農業と観光を組み合わせたテーマパーク。

- 尾道 市立美術館にて フランス近代絵画の巨匠展が開催される。三月十九日から四月十六日まで。五百円。休館日は三月二十七日。
- 魚島 三百六十五人の村おこし。いつか花咲く村づくりをテーマにシンポジウムを開催。横井育美、田所基家、佐伯直行各氏が発表。
- 岩城 いわぎ中学二年の生徒が魚をさばく初体験。川本、内藤、浦安三氏のおおかなママさんが指導の「お魚ヘルシー一日教室」にて。
- 瀬戸田 ベルカントホールでの映画の情報。ジュラシックパーク三月十八日午後六時半から。当日千円。こども映画祭。アニメ・鳥

弓削通信

発行責任者
愛媛県越智郡弓削町
土生318-2 平山和昭
電話：0897-77-3072

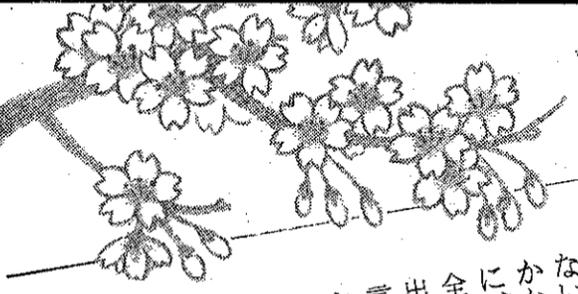
ポコ通信 繁盛記

人がみな
やさしゅうみえら
万愚節



「天下のゴールデンウィークは、人並にのんびりしましす。」

1995年4月1日 発



地図をお持ちだろうか。地図をお持ちだろうか。広島、愛媛、香川の県境が交わるところに斧(よき)町というところがある。人口四千五百人、地場産業は若干の漁業と若干の商工業それに公共事業で食いつないでいる土木業。労働人口の大半は町外にその職場を求め、すでに高齢化社会に突入し、過疎地に指定され、為政者はなんとか町の活性化がはかれぬものかとパブル経済華やかなりし頃、山はゴルフ場用、谷川にはダムを、海岸は完全に観光開発業者の進出を待ち、リゾート立町を宣言したが、いまだ明るい陽はさしかけてこないという。しかし明けぬ夜はないのだと、町民はこぞって明るく生きている。

この町に「ポコ通信」というミニコミ紙が発行されている。数年前、町役場の前で狸が目撃されたことから自然に尋常でないことがおき

長自ら筆をとることもあるというから驚きだ。この「ポコ通信」は第十二号になるとまた一号に戻る。螺旋上昇型ミニコミにユケーションというのだから面白い決まりがあつて、会員相互間では記事の内容についての意見交換はしてもよいが批判はならない。意見なり、批判なりがあれば総会までそれを温めておくべし。さて、明けて一月十五日、会員は一堂に集まり、昨年の成果、本年の計画などを看る懇親会を開く。つまり総会である。

「魔のポコ合戦の日や」とある。この日は、前向きな意見であれば何を言ってもよく、記事の内容の批判から個人攻撃が発行される。手酷くやられるも抜けた人はまだいない。それどころか「おもしろそーじゃ」とやりたがる人が結構ある。「そうで「この分では日刊ポコ」にせよ」とはいかんかのー」とは発案者、海野さんの弁ではある。なんとおもしろい



「子どもの権利条約」
つてなあに? ①

第1条～第5条

こどもたちに「最善の利益」を

この条約の1～5条では各国が「こどもの権利」を協定するにあたっての基本になる考え方をまとめています。

成長によい環境を

自然遊ばせ
豊かな食生活
自由な時間
表現の自由
明るい家庭

子どもにいちばんいいことをしてください

子ども権利条約

約束もってね

第1条 「子ども」っていつまで?

17歳
18歳

子どもです

第2条 差別はしません、されません

一人ひとりちがうんだよ

第4条 条約を認めた国は、子どものために骨惜しみをしてはなりません

第5条 子どもたちのためになる親の指導は、尊重されます

★「こども権利条約」、日本名で「児童の権利に関する条約」が批准されてそろそろ一年(5月16日)になります。この国際条約が日本で批准されるにあたって、条約の意義を政府や国民に訴えていた人たちの関心は「Child」がどう訳されるかということでした。「こども」と訳してほしい、との訴えに対して、日本政府は「児童」の訳語を当てました。まずはどんなものをシリーズで紹介します。

【お便りから】



早いもので弓削を旅してからもう5カ月も過ぎてしまいました。4月の下旬になったら弘前城に桜を見に行きたいと黒田さんと計画中です。

弓削を訪ねたときの想いを思いつくままに書いてみました。

突然弓削通信が送られてきた。発行責任者平山和昭頑張っている彼の姿が思い出された。そこには懐かしい文字で“さびしくなったら手紙をください”と。

賀状に夫が長期出張の事を書いたのを覚えていてくれたのでしょうか。忘れずにいてくれたことが嬉しくて急に弓削に行ってみたくなったのです。黒田さんを誘って・・・

もうずーっと昔 一度だけ行ったことのある弓削に何と 26年ぶりでした。島には 以前はみられなかった橋がかかりつつあり白い建物が遠く船の中からみえるのです。アア弓削も変わったのだ。なんだかちがう島に来たようだった。26年前、じゃり道を走ってのぼる朝日を見に行った記憶があるのに、そんな浜辺は見当たらない。

迎えてくれた平山夫妻は変わっていません。船での別れに涙した思い出深い旅になりました。

船のわかれは遠く離れても手を振る姿が瞳の中に残るのです。橋がかかってしまったら、今度訪ねることがあるとしたら、バスになるのでしょうか。

私は弓削にはやっぱり船で行きたいのです。そして姿が見えなくなるまで手を振りながら別れたいのです。お元気で。 佐々木静江(厚木市)

★島外から「弓削の方言が懐かしい」というおたより。弓削の方言について書いてくださる方を募集します。

《平和でないこと》

弓削通信39号の「平和って何だろう」を読んだ

何だろう? それは平和でないことを知ることだと思ふ。もう何年も前に「戦争を知らない子供たち」というフォークソングが流行った。

戦争が終わってほくらは生まれたり、戦争を知らない子供たち。でも今、世界中のどこかで戦争が続いているのは子供たちも知っている。

先日、数人の集まりがあった。目的の話し合いもすみ、いよいよ延長戦の井戸端ぐべリング。震災のこと、ボランティアのこと、サリン事件のこと、信仰のこと、訪問販売人のこと、学校のこと、テレビのこと、そして戦争のこと。まったく新聞の第一面からテレビ欄まで総まとめだ。

お年寄りから伝えられている戦争、外国暮らしや仕事で戦火と隣り合わせだった体験などなど、他愛のない話からずいぶん深刻な話になったりするが、色々な考えを知ることが出来る。

そんな話し合いの中から、学校での体罰やいじめも「平和でないこと」の一つだと気がついた。どうもそうしてみると「平和を遠いもの」にしているものは、あんがいな所に転がっているのではないだろうか。

私は戦争が終わって生まれた子供たち。私の子供たちは



気分は赤胴鈴之助。(昭和29年撮影) 中国新聞「子供の風景」から

イジメは無くできるか

最近、小中高生でイジメの遺書や日記等を遺して自殺や登校拒否がたびたび新聞にでる。何が原因か。学校警察思想家評論家家庭の親等が頭を絞って協力して絶滅へと努力しているらしいが、効果の程は分らない。

天地人

島田 英好

人間の仕組は間違っている。今、人々は一種の夢に捕はれているのである。生命欲の強いものほど自我を主張する夢想者になり易い。これは謂はば動物本能である。しかし社会生活を営むには自我主張や夢を追ふ反面、自我を押さへ他人との協調妥協奉仕による共生心もまた必要なのは云ふまでもない。

オーム教信者の言をきいて

人間は欠陥と長所両方を持つ。自分も他人も皆違った長所や欠陥が心にも体にもある。それを忘れた人によってイジメ犯罪等がひきおこされる。けっきょく親がそのことを幼時から教え込む可きなものである。 八四才(町内浜都)



平山 忠義

お隣の 幼女がその兄呼んでゐる。花ほろほろのやはきそのこゑ。 春のある日の屋下がり。近所の子どものたの遊ぶ声が聞こえる。世のわずらいをまだ知らぬ子どもたちの遊び声の何とのびやかな響きであることか。それは、昔から今に変わらぬ、無邪(むじゃ)の極楽世界である。

かの源平争乱の修羅(しゅうら)の渦中であつた後白河法王が愛誦したといわれる今様歌(いまよううた)平安末期の流行歌の一つ、遊びをせんとや 生れけん 戯れせんとや 生れけん 遊ぶ子供の 声聞けば 我が身さえこそ ゆるがる れも思い合わされて、生命の不滅さを感じさせるものがある。

その日の子どもたちの遊び声の中でも殊に私の心を引いたのは、幼女がその兄を呼ぶ「おにいちゃん、おにいちゃん・・・」という声であつた。その、えもいえず柔らかに優しい声(こわね)は、まるで春の日ざしを浴びながら、さくらの花びらがほろほろと散ってくるような感じであつた。それは、幼い妹の兄に寄せる信頼感そのものが声となつてこぼれ出たようで、老いて古紙紙のように皺んだ私の心をもしみじみと潤してくれた。

ある春の日の思いがけない耳福(じふく)であつた。

双眼鏡

以前は店先のアサリを買ってまで食べようとは思わなかった。庭先でねぎを抜くようにちよいと浜に出れば貝は掘れた。いつか浜は姿を消し大切なみんなの財産が食い荒らされていても誰も怒らない。活性化を叫びながらあじわいもへったくれもない島に成り果てて。怒ってはいても黙んまりさんじゃ伝わらぬ。(平)

『じんけんの詩』 今野敏彦 白石司子
『しあわせいっばい』 生きていたい 自分のため
『ぞむ』 しごとにつきたい みんなのために
『大三島』 何をしたい あいする人と むすばれたい になげん
『うしたねがいが じゃまされないうこと』 それが になげん

『故山背に狐のように世を渡れ』 白石司子
『さくらがきれいにさくころ三年生』 池田朝香
『白水仙一途なるもの折れやすく』 阿部セツ子
『てんぶらのれんこんうまい母をみて』 赤田虹人
『私まねして二人で共犯 二年・川崎さゆり』 田坂敏子
☆ぎこちない指先が弾く弦の音は途切れ途切れの「ラブミーテンダー」前神 愛

『踏青や子後の歩 幅を整えて』 赤田虹人
『陽に笑い風に黙して黄水仙』 田坂敏子

弓削通信

発行責任者
愛媛県越智郡弓削町
土生318-2 平山和昭
電話：0897-77-3072



人の生きる目的は何か

投稿

先年ミカンの整理をしてい
るとき、若い人が入って来て
「人は何を目的に生きてい
るのですか」と尋ねられた。
答えに困った私は「暫く考え
させて呉れ」と即答を延ばし
て貰った。八十過ぎての今日
まで自分が毎日生活してきて
居り乍ら、自分自身のこと
もあるこの質問に即答がで
きないとは情けないと思い、過
去を彼れ此れと振り返りなが
ら毎夜のように考えたが、い
まだに自信を持って答えられ
る程の考えに到達し得るに至
らない。

最近やっとなの答えにはな
るまいかと心に浮かんだのは
次の事である。
「人は元気で長くハタラクこ
とが生きる目的である」
即ち、元氣、長く、ハタラク
この三つが揃うこと。
元氣とは、体力、氣力、合
自然的考えで行動できること
で、毎日の積み重ねが順調に
行なはれなければ充実してこ
ない。生理的に健康でも邪心
や心配事、不平不満が心の中

八十過ぎてても自信を持って答えられないのだが

元気で長く

ハタラクこと

天地人 ⑥

島田 英好

一二〇才で山仕事に行つた泉
重千代さんの例がある。
生物は何時かは死ぬものだ
が、長く生きるために後継ぎ
を残して生き續けて貰えるよ
うになっている。
ところで人間は、自分の力
だけで生き抜く力の弱い動物
である。海亀の子が砂浜で孵
化し、ひとりて海に帰って生
き抜くような力は無い。助け

にあると元氣は出ない。
長く續くこと。人間の脳細
胞が全死するまでには二四〇
年かかるのだそうだ。嘗てそ
の話を聞いたとき、私は素人
で、脳細胞の生きて居る間は
人は生き續けられるのではな
いかと思ひ乍ら聴いたのを今
も忘れない。半分の一五〇年
生きた人の例を聞いたことは
無いが、一三三才で結婚した
ウクライナの人や、日本では

「子どもの権利条約」

第12条～第14条

ヘンなことはヘン
ヤなことはヤだ
という
権利がある。

ってなあに? ③

第12条 自分の意見は どんどん言おう

子どもの意見を無視したり、
ばかにしないでほしい。

第13条 なんでも知り、 表現し、伝えるこ ともできるんだ

個性を表現しよう。
学校の生活はもっと楽しくのびのびしたい。

いいこと、いってるかい?

「子どもの権利条約」では、
子どもの「意見表明権」を
保障しています。

例えば—

丸刈りは
いけだ!

意見という
権利。

ここを学校
を受ける!

多少のミスも
意見という
権利。

「自分の気持ちや意見」を
いえるという大切なこと。

But! 『タバコがほしい。
自分お酒が飲みたい』といえは
それができるようになるわけじゃない!
大人には、子どもを指導する、責任、義務があります。
「よく話し合ひましょう」

じゃあ、小中学生ともたちはどうする?
市ちゃんだつて...

一人ひとりの
気持ちと表現
が大切に
されるんだ!

例えば、両親が
離婚する時など
まだ自分の気持ちや、うまく
コトバにならないものも、意見
として聞いてもらおうべきだ!!

でも、やっぱり、自分の気持ちや考えを
「自分のコトバで表現する」
ことも、大切だよ!

心の自由は特に大切な権利。
誰にも決められない

因島図書館
7月23日(日)
午後6時開演
(5時30分開場)
津軽三味線
リサイタル
田中竹仙
海が聞こえる...

カルボラ・インノシマ
協力券 1500円

因島市民文化シリーズ
実行委員会

合いの集団生活の力で人は生
き續けられているのである。
その現況ゆえにハタラク、即
ち周田(ハタ)の人の生活を
楽(ラク)にし易いように助
力、協力し合うことが人の生
きる目的の一つではあるまい
かと思うのである。
他の方は更に進んだ答えが
有ると思う。私も更に考え度
い。(町内浜都在住八四才)

芸予文化情報センター
因島図書館
★七月十五日(土)
「興味ある方はどうぞ」
2時～4時・情報室にて
「映画研究例会」
「映画になった名著」
主催・映画同好会
☆七月二十二日(土)
3時～5時・お話し室にて
「読みきかせの会」

子ども本の講座

に参加して

長年の願いだった図書館ができた因島市
では、本にまつわる催しものがさかんです。
7月8日(土) 広島県立図書館などが主催で『子ども
と本の講座』がありました。吉川 五百枝(きっかわ い
ほえ) 講師のお話は(子どもと本を結ぶあれこれ)
「人は現実に縛られるからこそ、目に見えるものを超え
たその先の世界に目を向ける。そのてだての一つが本。
とくに子どもにとっての絵本はそういうもの」...と。
今まで続けてきた家庭文庫や、お話を通じて「図書
館がほしい」との願いも表明している。子どもにやさし
く体当たりする情熱が素晴しかった。吉川講師はまた、
「読みがたり」と表現した。よくいう「読み聞かせ」の
ことで、「ともにかたる」という発想がいい。
「読み聞かせ」という言葉にはじっくりしていなかった
のでスッと胸のつかえがとれた。子どもにも覚えやすく
「ほん読みっこ」なんていうのはどうだろう。(久)

こどもは大人のコガタチャウで。都合よわてわるいことに、おとなは
ぜーんぶ、子供の時のコト忘れてる。知識や経験は少なかってん、大人
よりごっつう喜怒哀楽の情があつてん。そいでんハートはまっ白やった。
人の世の美醜を見せることも含めた「教育」に翻弄されるこども達の、
本当の「味方」になっていきますか? 親であり子供でもあった、大人たち!

思い出の 弓削の地に さわやかな 音楽を!

藤原大征(今治)

梅雨入りという事で不順な天候が続いていますが、昨年のような水不足に悩まされることもなさそうだし、有難いことです。

八月二十六日(土)に生徒たち六十名を連れて弓削に行くことになりました。勤務十一年目に入っている今治北高校吹奏楽部の演奏会を弓削でやることになったのです。

毎年八月末に今治で定期演奏会をやっているのですが(今年第二十一回で二十八日に今治公会堂)以前より、いつの日か弓削でやれないものかという夢のような気持ちをあためていました。現在校勤務が長くなり、いつ転勤があるかも知れず少々焦りもあって弓削高校の音楽担当の先生にチラシと漏らしたところ大乗り気で、早速、弓削のママさんコーラスの人達に相談したそうです。そのメンバーの中に当時弓削高校生だった連中(音楽部員だった人も含め

て)が多数いて、嬉しいことに私のこともよく覚えていてくれていて、たちまち実現に向けて盛り上がったと言われます。弓削は私にとって教員としての第一歩を歩いた地で、多くのことを学ばせてもらいました。地域の人たちとの触れ合いの中でいろいろなこと考えさせられました。島を離れるときは「いつの日か必ず帰ってくる」などと大見得をきりましたが、もはやそれも叶わないでしょう。なんらかの形でお返しをしたいという気持ち、と言うより極めて単純な私の個人的な感傷からの思いつきですが、その日にあわせて同窓会をなどと言う声も聞こえてきます。本当に有難いことです。

当日は出来るだけ親しみのある曲目をと考えています。弓削高校吹奏楽部やママさんコーラスとの共演もできればと思ってもいます。

嫌なことの余りに多い世の中、わずかでもさわやかな音楽の調べを弓削の地に響かせることができればと願っています。是非お越しください。いのは勿論のこと、口コミでも皆さんにご案内してください。(S.S.S.S.S.)

暑中お見舞い申しあげます



(宮坂 恵子)

「出よう」会6年目に思う

「出よう」会も、この5月で6年目を迎える事になりました。月1回の食事会とは言え、60回も回を重ねると気心も知れてきて肩の力が抜けてきて、お互い楽にいられるようになったと思います。しかし一方で、5年前に比べてご老人方の「衰え」を感じます。6月の食事会後の反省会にもその話がでました。Oさんが、会費を払ったのを忘れて何度も気にして言うてくる話、Iさんが、前に親しくしていた人をスッカリ忘れてしまっている話等。父の事がダブって思い出されました。父の事を「おや??」と思ったのも、お年玉をくれたのに「あげたっけ?」という事が始めてでした。それから火事やら引越しやら近い人の死やらが重なった事はありませんが、一年又一年と物忘れがひどくなって、帰り道が判らない、誰か判らない、トイレが判らない等、自分でも、そんな自分に不安を感じイライラを募らせて行ったようです。そんな父が気持ちをぶつけられるのは唯一母で、それは判りながらも、母が次第に精神的に追い詰められて行くのを見るにつけ迷いながらも病院へ入れました。そして入院して2カ月、父は原因不明の事故で、脳挫傷で、1週間後亡くなりました。

良いと思って入れた病院ではありません。何軒も探し、良い病院や施設はどこも満杯、普通の老人病院では受けてもらえず、仕方なく3、4カ月だからと決めて決めた精神病院の痴呆病棟でした。母と交替で通いながら、その病院の内容には不審を感じることがいっぱいでした。でも悪徳病院という訳ではありません。ある意味では、今の日本ではごく普通の病院です。だからこそ逆に日本の老人福祉の貧しさを、否応無く見せつけられた気がしました。

「でよう」会通信

No.56 1995年 6月号より



弓削町浜都出身の八代美さんは、東京で保育園経営の傍ら、老人問題に精力的にかかわっておられます。これは「老人給食会」の通信です。

五島列島 夏まっさかり

○今年のは湯水の懸念もなく、野外で思いきりかいた汗や、海水浴で肌にしみ込んだ塩分をさっぱり流す気分は何とも爽快で、躍動的に過ごせる夏は私が大好きな季節です。
○長崎県は日本一の多島県で、離島は夫々の島づくりに、即ち第一、二次産業を引っ括めた分野で創意を凝らし、振興の努力を続けています。最近、老人・子供を含めた運動広場とフルーツ・フラワー公園コンプレックスを介した広域交流の志向が盛んです。そこで近在の数カ所を見学し、参考にしたいと考えています。
平成七年盛夏 菅井健二
(菅井氏は前、魚島診療所長、現、福江市伊福貴診療所長)



(右)7月2日・生名村波間田で海辺の生き物さがし。元大三島中学校長 藤原謙一先生と

(左)6月24日・因島大浜海岸クリーンパトロール。清掃の前に尾道農林水産課の鏡尾さんが人間と地球について説明。

子劇のババのひとり言

さっそくババ友達の幡地さんと廃油石けんを作り、店主となって売りまくることにした。これって姑が嫁のすく腕をジトツとした目で見ているあれに似ていない?でも、子げきのババってこういう風景を望んでいたんじゃないのかな。いつまでもババが陣取って、仕切って、若ママがついて回るよりも、ずっと明るい風景でしょ。
先日、おやこ劇場の県全体会に出かけた。そこでは、今まで劇場の運営に係わってきた人の経験をどう生かせるかをさぐっていききたいという話を聞いてきた。そうだ、これだ。
『因島おやこ劇場』も誕生して七周年め。そろそろ明るい世代交替をしてもいい時期かな。若ママからいろいろ刺激を受けて教わることも多いだろう。少しづつエネルギーをもらっていつまでもピカッと輝く子げきのババでいたいな。
青木喜代子(因島)



平山 忠義

「御仁」は、他人への敬語。お人。お方。「痲疾」は、長く治らない病気。「やをら」は、おもむろに、ゆっくりとある日、街のレストランで昼食をとった。注文の品が来るまで、何となく店内を見てみると、少し離れた向こうのテーブルで、今しがた食べ終ったらしい老人(私と同輩くらい)が、おもむろにポケットから取り出した紙包みを開き、錠剤らしい物を口に含み、コップの水でゴクリと服用した。そのいかにも手馴れた動作は、ご老人の毎食後のお定まりのことなのか、まるで太極拳(たいきょくけん)の所作(しよさ)にも似て、流れるように、美しくさえあった。

外見は嬰孩(かくしゃく)たるご老人も私同様、身体の奥深く、頑固な病氣を持っておられるのであろうか。その病氣を力づくでねじ伏せようとはせず、さりとして、つけ上ながらせせず、上手になだめながら多年、病氣との共存を計ってこられたのであろう。まったく似たような立場の私は、さながら、鏡に映る我が姿を見ているようで、その見ず知らずのご老人に何ともいえず親しみを覚え、遙かに声援を送る気持ちでこの一首を詠んだのであった。

双眼鏡

▼おたより特集です
▼弓削通信に寄せられる便りは月十通は下りませんが、残念ながら町内からは僅かです。

▼因島交流倶楽部4期生として県外ながら勤務地が因島なので入塾を認められました。印追々体験記を発表します。印象としては皆よく意見を述べること▼友人からこの8月、戦争加害者の立場から韓国へ1週間「平和の旅」をするとの便りがあった。生協活動として核兵器はイヤだとの意思表示をしていくとも▼気がついたとき「学ぶこと」の第一歩だと思えます▼議会見聞録のコラムも設けます(平)

弓削通信

発行責任者 愛媛県越智郡弓削町
土生318-2 平山和昭
電話: 0897-77-3072

「月光の夏」 を見る会

去る八月十一日、因北中学校体育館で「月光の夏」という映画が上映された。世話人は四十数名の主婦。発案者達は戦後五十周年の節目に、戦争体験のない親や子どもにどうやってそれを伝えていくかとアイデアを出し合い、親子で聞く被爆体験、親子で観るヒロシマをテーマにしたミュージカルなどを試みてきた。

映画「月光の夏」の評判を聞き福山まで親子連れで見に行き感動のあまりぜひ近所の人たちに、子どもたちにも上映会を思い立った。



をみごとに弾いて去っていった。このはなしは市民の中に共感を呼び、平和の記念碑としてピアノは保存されることになった。

当たりで空母一隻を沈めた、というやつ。

物語は太平洋戦争末期の昭和二十年六月、佐賀県鳥栖の国民学校(現中学校)を出撃をひかえた二人の特攻隊委員が訪れた。この学校にグラランドピアノがあると聞き、死ぬ前に一度おもしろいピアノが弾きたくて駆けてきたのだ。ひとり譜をめぐり、もう一人がピアノソナタ月光

一人の軍人の、軍人であるが故にとった果敢な行動が、自らは決して危険な前線には赴かない軍人達によって曲解され、あまつさえ自分たちの無能ぶりを糊塗するために未だある若者たちの使い捨てという思想を産んだ。そして、その「使い捨て」思

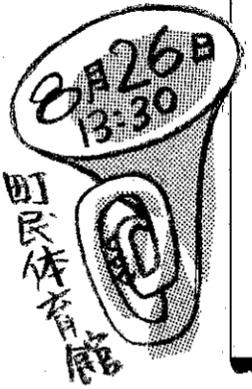
50年目の夏

「本居長世没後五十周年」 記念コンサート

想は、明らかに「犬死」に向けて若者を追い立て、さまざまに、やむを得ぬ事情によって死ぬ機会を逸した若者達をより過酷な運命に立ち向かわせることになる。ノーテンキな一般大衆は「事象の美化」という作業に嬉々として加担し、そのあげく何とも面妖な現代社会を迎えるに至らしている。

熱き思いを伝えたい!
映像 サウンド 歌声 語り

今治北高等学校吹奏楽部
コンサート・イン弓削



八月二十六日、今北吹奏楽部のコンサートが町民体育館でくりひろげられます。主催は「町に音楽をよぶ実行委員会」で同校で吹奏楽部を指導しておられる藤原大征(ひろゆき)先生のかつての弓削高での教え子達が中心になっています。藤原先生の弓削にたいする熱き思いが全国に名だたる今北サウンドをこの地で味わえる「幸運」となりました。

読者の皆さん、ぜひ楽しんでください。(ところでこれは学校行事ではありません。音楽を愛して止まぬ師弟が、弓削の皆さんへ自前で音楽の出前、そう、心づくしのプレゼントなので) 入場無料。午後一時半から

朗読
この時代
9.8 18:30

九月八日、午後六時半から芸予文化情報センター(因島図書館)にて因島の朗読グループ「星の会」による朗読会が開かれる。趣意書には「終戦五十回忌をふまえメンバーの胸の中にある終戦にたいする思いを語り伝える試みをしたい」とある。



読む作品は短い、いずれも戦争をいとう気持ちの強いものばかり。メンバーの主婦達は勉強会では互いに批評や批判しあうことを遠慮はしない。他人の意見に自分の見解をさらすことによって言葉の意味をより確かなものにするためだ。議論が人格攻撃に発展しない希有な女性のグループである。

仲間でありライバルであるそんな関係をさらりと実践しているサークルに興味ある方もぜひどうぞ。 出演者・二十名。 終演予定・午後八時。

七月十八日(火) 九時より 臨時議会がありました

先の町議選で新議員四人が加わり、顔ぶれも変わってきた。まず町長の挨拶があり、「志のある、責任のある政治を」という言葉が印象に残った。六月定例議会(株)ジャヴァの「ゴルフ場とホテルを含む弓削アイランドリゾート計画」の凍結が発表された過程を踏まえると「志」「責任」という言葉を「今後の決意」と見た。

次に議長、副議長の選挙があり(議員数十四、単記無記名選挙)結果は島根亀夫氏が十三票で当選。次点は浦野隆文氏、一票。副議長は、越智貴美夫氏が八票で当選。次点

は泉清昭氏、三票、村上要氏一票、白票が一。

その後の議案審議などではめぼしい質問もなかった。この見聞記はこの程度。「広報ゆげ」八月号に議会構成や、可決された議案などがやや詳しくのっています。閉会后、弓削ロジにて町幹部と議員との懇親会。今回の傍聴者は三名でした。瀬戸田町では商工会婦人部や各地区の女性会などで四十名近くになるとか。勤め人は無理としても女性グループの参加というのは実現できそうです。日曜議会、夜間議会などがあれば、これまたすばらしい。我々の選んだ議員の活躍をしっかりと見つけることで魅力ある町づくりは志の高いものになるはず。

町議会議員 平山和昭

弓削小校歌には長世の祈りがこめられている。 (参考資料・金田一春彦・著 十五夜お月さん) (裏面に関連記事)



古いもの新しいもの

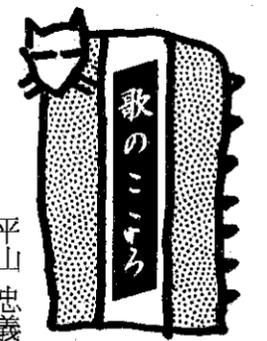
このシリーズは、弓削通信第4号から第7号に連載したものです。平成3年7月の愛媛夏期大学で来島された金田一春彦博士の「本居長世とはどういう人か」の講演を機会に、弓削小校歌の周辺を探ってみました。

手に一枚の楽譜がある。昭和十一年(55年前)新しい校歌が披露された。そのとき歌唱指導を受けた本居若葉さん(長世の三女)より寄せられた校歌の直筆草稿(写)である。総譜。ホ長調。弓削町誌には小学校六十年史よりの転載として「ホ長調」の曲のついでに、もとはホ調だった。現在子供達が歌っているのは「ハ長調」いつ変わったのかは、はっきりしないが昭和十七年には、すでにハ長調だったと

は当時の教師の談である。訳ありと思うが、多分教える側の都合だったのだらう。・・・これは想像だ。ハ調とホ調。事の当否はともあれ聞き比べてみると曲の気品は、ホ調が優る。調。弓削町誌には小学校六十年史よりの転載として「ホ長調」の曲のついでに、もとはホ調だった。現在子供達が歌っているのは「ハ長調」いつ変わったのかは、はっきりしないが昭和十七年には、すでにハ長調だったと

と、いろいろな歌詞で作者は吉岡某(名は不明)いわば幻の校歌か。行進曲風の軽快なメロディで、ゆったりとした高雅な本居校歌とは対照的だった。世はあげて軍国主義へ傾斜を深めていた時代。当時の男子生徒の間では、吉岡校歌に未練を残す者かなりの数いたということだ。ちなみに、長世・作と伝えられる弓削小唄はこの吉岡氏の作品だそう。菊池富一郎・此枝浩道・阿氏他のご指摘による)

▲ 1991年10月号



平山忠義

(七)

磨かれて 機首燦爛の
エノラ・ゲイ 翼下の惨は
展示されざりき

ことし終戦五十周年の記念に、アメリカ国立スミソニアン航空宇宙博物館が計画した「原爆展」は、アメリカの元軍人らの猛反対によって計画が大幅に変更された。

変更されたのは、被爆の惨状を示す写真や資料(広島や長崎から提供)の展示取り止めである。それらは余りにも悲惨なので、見学する人々に原爆投下を非難する心を広めるからだという。

元軍人らの言い分は、原爆投下は戦争終結を早めるために必要だった。投下しなければ戦争が長びいて、もっと多くの死者が出るはずだった。だから、広島に原爆を投下したB29爆撃機「エノラ・ゲイ」(その爆撃機の愛称)は、戦争を早く終わらせた功労者、と言うのである。それで、倉庫から古びた機体を引き出しピカピカに磨き上げて展示しその功績を称えようと言うのである。

それに対して、歴史学者や各反対を主張する市民団体などは強く反発した。が、ついに、被爆の惨状を示す物の展示はされなかった。

戦争の悲惨を客観的に見せて、平和への心を育てるのが犠牲者へのただひとつの供養法である。そうだと心に沁みて思うのは、敗者に与えられた唯一の収穫であるかも知れない。

双眼鏡

お盆ともなれば、たくさんの方が故郷を指す▼弓削では「ふるさとソフトボール」なるものも開かれる。「暑いのにヤレのー」という人もいれば、それだけが楽しみで遠路駆けつけてくる人もいる。ひとと夫々でお盆は楽しい▼弓削島出身者もこの島に心を寄せくる人もある。その人たちにとって弓削島が人も自然も含めてよい印象だからだと思ふ。ここにリゾートという言葉の意味が実現されています。過去、現在、未来にわたって美しい弓削町とは？(平)

送

本題に入ろう。安岡正明氏はこう書いている。「言葉は失うことはこの言葉につながらる心をも失うことである。それは文化の砂漠化を進め一國の興亡にさえつながらねない。」(漢詩読本)校歌の冒頭 松はみどりにおもむ。は陳腐だとおもむ。しかし当時としてはこの句のままの風景であり当の子供達に自分たちの学舎を思いおこさせるには、どうにもこれしかなかったのではないかと気がもする。事実筆者などはこれを歌うときには、海岸にズラツとはえていた松や広々としていた砂浜がまぶたにうかぶ。青松白砂が失われれば校歌は空文化する。けれど、ある事物が連続として生きるかどうかは、実際にこのような時点が分かれみちである。現実には合った新しい校歌が望まれるのか。現実と校歌との調和がどうなるのか。

▲ 1991年9月号



月の光を見に...

むかしは道端に出したバンコにねころがって天の河を見下ろしました。夜空は美しく、近所の大人達のヨタ話を小耳にはさみながらついうとうとした記憶もあります。今どきのわたしたちは、「家」という箱に捕われすぎ、文明の利器にも捕われすぎではないでしょうか？ 寝苦しい夜は「熱帯夜」などというマスコミ用語を持ち出して我慢などしないで、戸外に出てみましょう。月光は細波と戯れ、梢を渡る風とのハーモニー。親をさがして鳴く鳥が、波の国から生まれ出るのは事実と知れます。

「文化」の定義はむづかしい地球上には人種の数だけ文化があり、さらにその内にはまた多様な文化が混在している。「多様」「地域的」といわれるゆえんだ。こうしてみると「文化」とはその集団の生きがい「とでもいえそう。さて、人生の一番多感な小年期を過ごす小学校。生涯をつらぬく「心」がつくられる。同時に地域文化の波をもろに浴びる場所でもある。校歌は地域文化の担い手になりうるのか。このシリーズはそういう疑問が根底にある。もとより筆者の力量でそれに答えることは、とても無理だ。しかし様々な事実を並べてみれば、ひょっとして一人の天才と有能なビジネスマンが弓削に関わったことの意味があぶりだせるかもしれない。ともかく試みた。本居長世については「十五夜お月さん」に詳しいが簡単に言うとう大正と昭和初期にかけて活躍した音楽家だ。特に童謡に力を注ぎ、優れた作品で一世を風びした。

碑

のちの世の為の備忘録だ。その芸術で子供の文化に大きな寄与をした長世。財力で村の開明を試みた岸太郎。共に縁あってこの地に足跡を残した。二人の果たした役割は何だったのか。二人を讃える碑もあっていい気がする。(おわり)

▲ 1991年11月号

▼ 1991年12月号

長世(ながよ)を校歌の作者として招いたのは二代目 浜根岸太郎(明二十七日、昭四十五、函館出身)であった。初代岸太郎(弓削島出身)に見込まれ、あとを継いだ。広い視座と実行力の持主との感が強い。大正十三年初代の遺志だった教育基金の創設以後、昨今では考えにくいが自身の郷里でもない弓削のため湯水のごとく(と思えるほど)援助をした。なかでも特筆すべきは昭和四年ドイツ製グランドピアノを裏村の子供の音楽教育のため寄贈したこと。同六年、村では始めての音声入り映画会の開催、同十一年校歌制定。さらには教職員の研修旅行の実施、など今の視覚教育を先取りしているような施策がなされる。敵しい時代なればこその人づくり。東京オリンピックの年編集された『小学校

洋琴

六十年史』には当時の人達の思い出として、時代の最先端をのぞかせてくれた村長のことが綴られている。とはいえ、舶来ピアノの寄贈にワットと歌声があがるほどの価値観が村民に定まっていたのかどうかは別の話。教師にしてもこなせる人の方が少なく、手に余る人がいたとして不思議ではない。人間の素晴らしさところは新しいものに挑むことだ。ひとりで修練に励みモノにしてしまった教師を知っている。手近に道具があるからこそできる。そこに岸太郎の志をみる。多くの子供達がこのピアノの前で声をほりあげ、長世も弾いた。あつて当たり前だったピアノ。今では複数台も保有し豊かになった。岸太郎の贈ったピアノは惜しまれつつ数年前廃棄処分された。

●古いもの新しいもの

●古いもの新しいもの

弓削通信

発行責任者
愛媛県越智郡弓削町
土生318-2 平山和昭
電話：0897-77-3072

文明とゴミはシーソーゲーム

紙オムツは文明度のバロメーターか？

●ジレンマ・その一
文明国、あるいは文明国になろうとする国にあっては活発な経済活動が国是となる。すなわち大量生産、大量消費が、豊かさを表わす目安になるのだ。そ

とところが消費とは、生産された物の姿形を変えていく過程に外ならず、議論を飛躍させれば、生産・消費・ゴミ、という流れになる。このゴミがくせものなのでござる。ゴミさまが商品再生産の一翼を担っているのであれば、とりあえずメダシ・・・なのだろうが苦勞の割りには中々そううまくはいかず、むしろ商品の大量生産とゴミの大量生産が同時に進行しているらしいのである。

ジレンマじれんま 護美問題

を吸うと遠心分離機にかけても取り込んだ水を逃さない。云う。一九七四年アメリカで発見された日本産商品化されたいつものパターンの紙オムツだが、多忙な母親や重病人、ちよっと締めりがわるくなっただけで、各地で福音を届けている。まあここまでではメダシとしよう。



「困るんですよ、最近は何となく！」
我が子の落とし物は どうぞ我家へ

た紙オムツ。
「ここは空きカン入れだぞ。紙オムツするな」
もれない、におわない、安心の紙オムツ。もえない、あられない、不安な紙オムツ。世は高齢化高速列車疾走。あすは我が身の紙オムツ。『売らなければ最終処分まで考へて』これが商品製造のルールになってきつつあるが、苦情とらみの声を上げねば実行しない。マナーだって、丸いばかりじゃ治まらない。

て、どこへ行くの
でしよう？
以前、都会に住
む知り合いの家に
行ったとき紙オムツがゴミ籠
につっこんであった。
「おーオ、こんな時代になっ
たんかいな。もっとも都会ぐ
らしじゃオムツ洗っても干す
とこ不自由じゃからなあ」
われらの(いま考えれば)
古き良き時代を振り返ったも
のであった。
「何か捨てるもんありません
か」親切なスタンドマンが声
をかける。「あらー、じゃこ
れお願ひね」窓越しに手渡さ
れたのはたっぷり実のはいっ

介護家族に深い共感

因島市痴呆性老人を支える家族の会
設立3周年記念映画上映会

痴呆性老人の世界

上映時間 1時間24分
岩波映画 作品

羽田澄子監督作品

主 催・因島市痴呆性老人を支える家族の会
問い合わせ先・因島市健康対策課内
TEL 2-4575
共 催・ねっとすたっふ BE.IN.GO
協 力・因島映画サークル

1995(平成7)9月16日(土)
① 14:00~
② 19:00~
会場 芸子文化情報センター 多目的ホール
入場料 無料

「子どもの権利条約」

第15条~第17条

子どもにだって プライバシーと 名誉がある。

つてなあに? ④

子ども同士でグループを作る
こともできるんだよ。

みんなで集まる、
仲間を集めて
グループをつくる自由もある

意見や願いも、ひとりで主張するより仲間といっしょに力を合わせれば大きくなります。

第15条

お父さんお母さんに
学校で
ロッカーや
持ち物検査を
受けて見られ
たコト、ない?
ロッカーや
持ち物検査を
受けたコトは
ない?

第16条

子どもも
プライバシーと、
名誉が保護される

校則がきびすぎる!!
ボクたちだけ
コンサートに行きたい!
コンサートを
からせて下さい
校則について
意見が衝突する
コトもあるヨ...

情報資料

テレビや雑誌など
を通して、情報と資料に
触れることができる

第17条

ただし、子どもにとって有害と判断される情報もあります。それらから子どもを守る場合でも、子どもの知る権利や親が子どもを教育する権利を侵害しないように注意を払わなくてはなりません。

テレビ朝日ニュースステーションが発行しているこどもの権利条約は、いろいろな人の訳文で成っている。もちろん子供の訳が一番多い。政府訳はコワくて、一回読んだくらいではのみくませない。正確を期するためだ、理解力が違うのだから、と言うのであれば、政府はのっけから第42条(広報義務)をさぼっているのである。私たちは皆、愛しいわが子に、たった一つの言葉を教えるとき、どんなにいたらくだったことか。

出る杭は打たれる

出る杭は打たれると言われ自分の信じていることを発表するのを控える人が多い。

天地人 ⑦

島田 英好

逆に人目を魅き自己宣伝をするため思い付をやたらと強調口にする人も亦多い。それを聞く人には、嘘か本当かわからぬままに他の人に宣伝する人もいる。噂話の多くは此の類である。

今日の日本人は自己宣伝をする人ほどチャホヤされる。昔は出る杭は打たれると言われたが今では出ぬ杭は腐ると言われる。有言不実行は何も商賣人や一部の政治家に限ったことではない。世界の会議でも狐と狸の化し合いが外交の手法であった時代が今で

出ぬ杭は腐る

も續いている。会議等では、出ぬ杭は、四辺の人の様子を見て賛否を決め、出る杭はものを繋ぐ支柱にはなってはくれない、むしろ国民がその線に沿わねば進めないよう綱を張り合う仕組みを造る。テレビを見てみるとこれは日本だけではなはいえ、不要になった杭は腐り去り、必要な杭と打ち替え綱を国民の生き易い道造りに張り替えて貰い度いものである。それをする原動力は全国民が人間のする事には必ず裏側に影がでると知り、よく考え、その影が弱い者苛めにならぬようにと考える人を選ぶのが第一歩である。

イジメや自殺の根源も此処からではないかと思はれる。(八五才 町内 浜都)

議会見聞記 ②

●七年度弓削町議会第五回臨時会が九月五日午前九時から開かれた。議案は『弓削町CATV施設整備事業工事請負契約の締結について』伝送路敷設に関する請負契約を認めるもので審議内容については特筆すべきことなし。質問は平山の二件のみで実質的には無いに等しい。賛成多数で可決。九時三十分審議終了。午前十一時五分、第二回町議会議員研修並びに上島地区議員交流会に出発する。「本日の議会招集は余裕がなさ過ぎまた参考資料が、提案書と入札結果一覧表のみでは判断のしようがない」との苦言は呈したものの、これは素人の言い草ではある。

研修会講演はNHK解説委員、河崎曾一郎氏の『国内政治情勢について』で並の上。

●九月定例会議は二十日から。開会が午前九時から。町議会議員 平山和昭



平山 忠義

この梨は 一箇ですからお月さん 半分残してと幼はたのむ

映画「地球交響曲第二番」は「第一番」のテーマ「人の心は無数の可能性を秘めている」をさらに身近なものとして、一層掘り下げた作品です。今回は 青木村仁監督をお招きしての集いです。



ジャック・マイヨール (海洋冒険家)



14世ダライ・ラマ法王 (チベット仏教最高指導者)



フランク・ドレイク (天文学者)



佐藤初女 (森のイスキア主宰)

地球交響曲

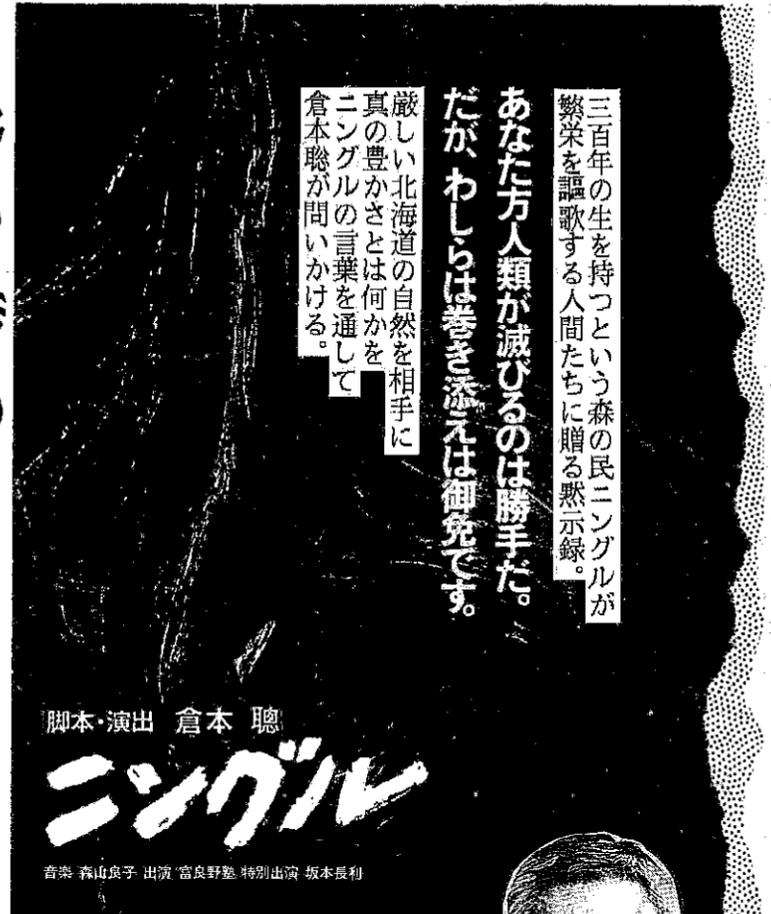
ガイアシンフォニー 第二番

シネマ & トーク

日時: 10月7日(土) 17:30 開場, 18:00 開演
会場: 因島市民会館 大ホール
入場料: 前売り 1500円, 当日 2000円
主催: ガイアネットワーク因島
共催: あすか会 (因島交流倶楽部卒業生の会)
後援: 10万人委員会 因島市/因島市教育委員会 因島市文化協会/因島おやこ劇場

チケット取扱い: 市内各公民館事務局
ガイアネットワーク因島 ☎4-2544

富良野塾因島公演'95 ニンギル



三百年の生を持つという森の民ニンギルが繁栄を謳歌する人間たちに贈る黙示録。

あなたが方人類が減ひるのは勝手だ。だがわしらは巻き添えは御免です。

厳しい北海道の自然を相手に真の豊かさとは何かをニンギルの言葉を通して倉本聡が問いかける。

脚本・演出 倉本聡

ニンギル

音楽 森山良子 出演 富良野塾 特別出演 坂本良利



10月15日(日) 18:00開場 18:30開演

会場/ 因島市民会館

入場料/ 指定席・A席4,000円 B席3,000円 自由席及び学生席2,000円

主催/ 倉本聡-富良野塾 WAWA. '95
共催/ 10万人委員会リフレッシュクリエイティブ因島 後援/ 因島市教育委員会・因島市文化協会・瀬戸田町・生名村 協力/ ねっとすたっふ BE・IN・GO

■チケット取扱場所・問い合わせ先/ 青木方 ☎08452-4-0103 中岡方 ☎0848-44-5617

弓削での取扱い 弓削通信77-3072

双眼鏡

▼瀬戸田町の国際交流員ジミー・ファーマンさんは砂漠の街ラス・ベガスで育ち、二つの気候しか知らなかった▼今は瀬戸田で一年を過ごしたので四季を十分体験したようだ。

▼季節感とは気候の変化だけではなく様々な行事にあるのではないかと思うのだが、すると旧暦の行事を新暦に移せたのはそのせい? (平)

瀬戸田 町内の六五才以上の高齢人口は総人口の二三・七二%になった。平成元年より年平均五八人増。今後保健福祉政策が充実する。

魚島 佐伯真澄村長は村政施行百周年の年にあたり、やがて一次産業の時代がくるという説を紹介し、瀬戸内海の楽園魚島を築こうと呼び掛けた。

生名 六月定例会議に於いて村長は政治倫理確立の為の村長の資産公開条例案を一二月定例会で提案する、と某議員の質問に答えた。

岩城 八月五、六日、村で初めてのパラグライダー競技大会が開催された。仙台から広島までの二五人の選手が参加しての感動的大会。

伯方 伯方町の人形劇「ほび」が第三回人形劇フェスティバルを開催した。児童文化としての人形劇を情操教育に役立たせようと。

弓削通信

発行責任者
愛媛県越智郡弓削町
土生318-2 平山和昭
電話: 0897-77-3072

世は携帯電話全盛とかで、すでに掌中に相手の姿を見ながら会話できる日も間近い。それはそれで便利至極のものにちがいない。



目三角にして世の変化を眺めていると、時代をあらわすサンカクというのがある。たとえば、高齢化社会を反映した「ボケない三かく」とは、汗かく、恥かく、文字をか。体を動かしんさい、引込み思案になりんさい、面倒がらず手先と頭を使いんさいと云うことか。私は友人たちからの手紙が届くと、何はともあれハサミをさがす。手紙をもらうのは実にうれしい。でも「時かぬ種は生えぬ」のたとえもあり嬉しがるうと思えば、それな

弓削町議会は『中国、フランスの核実験に抗議し、即時中止を求める意見書』を採択した。金

世の中、サンカク時代

りの努力も要る。手取り早くメッセージを伝える手段には不自由のない世の中になっているが、電話には強引さもあり、一瞬だが心驚かされる。その点、手紙だと心の準備ができ、やさしい趣があるといえる。福祉社会を考えるうえでスペインの『ベンボスタことも共和国』のスローガンを表現した「強いものが下に、弱いものが上に、子供を社会のてっぺんに」というサーカスでの人間ピラミッド。人間が引き起こしてしまった地球の環境破壊をこれ以上進行させてはならぬと、世界規模で自然に親しむ運動が盛んだが、海・山・仲間、の三角形にあえて挑むサンカクもある。核開発、核実験、核廃棄物の三核がそれだ。弓削町議会も九月定例会で『中国及びフランスの核実験に抗議し即時中止を求める意見書』を採択した。しかしこの議決も一種の金太郎飴で歴代広島市長が絶えず世界に発信しているメッセージ程には緊迫感がないのは当然だろう。だからか、フランス大統領は弓削の町民(議会)が反対しているのにもかかわらず平然と二回目の実験を強行した。三回目もやるだろう。このサンカクに本気で目を三角にして怒るか弓削町民! 議員と町民が志を一つにするべき期が来ている。

「子どもの権利条約」

第18条～第22条

こどもの権利はおとなの義務のうらがえし

第19条

お父さん、お母さんだっ
て子どもをなぐれない、
ほったらかしも禁止だよ

第18条 お父さん、お母さんが育てて、国が見守り助けてくれます

第20条 家庭をこわされた子どもは、国が守ります

第21条 養子縁組も子どもの利益をまず考えて

第22条 難民の子どもたちを救いましょう

★産みの両親に養育される当たり前の権利をうばわれている子どもは世界中にあふれている。子どもを社会の宝だと考えれば、国や親のとるべき態度はおのずから定まってくるはずなのに、こんな条約が必要になっている現実、いま必要なあらゆる変革と、100年先に必要な変革は同じものであることを示しています。



モチなげ、夜店、水龍太鼓などで20坪ほどの境内はにぎわった。



九月二〇日 九時〜十三時五十分
平成七年弓削町議会第六回定例会

定例(議) 会は議員が一般質問できる議会です。一般質問は議員にとって最も意義のある発言の場ですが、町民一般にとっても同様の筈です。町民は議員を選び、それを使って政治に参加できます。全ての町民は町のゆくすえに様々な思いがあります。それを議員に伝えるという、住民個々の具体的な行動があつてこそ、議員はその代表として力強く働けるものです。

選べば、あとはあいらがええ塩梅にしてくれようぞい。という考え方は間違いです。それでは彼らにエネルギーが注入されません。議員のもつそれぞれの見識や行動力は、単なる個人的資質と考へましよう。彼らをして『公人』として働かすためにはそれだけでは不十分。どうしても、住民からの突き上げが大切だと思います。毎回一人や二人しか一般質問に立たないという現実、議員の資質うんぬんよりも、むしろ町民一人一人の考え方のほうに問題あり、ではなからうかと感じました。

お話ししんどの話ですが、ぜひ前向きに改めましよう。また、「秋は夕暮れ。夕日のさして山のは(端)いとちかう(近く)なりたるに、からすのねどころ(寝ぐら)へいくとて三つ四つ、二つ三つなど、と(飛)びいそぐさへあはれなり……(枕草子)と、秋の夕暮れの情趣を賛美した清少納言(せいしやうなごん)の心も懐しく思い合われた。――が、ふと、私が今眼前にする夕焼け空には、一羽の鳥も飛ばず、街道の騒音も伝わらず、ただ、大空を燃え立たせた夕焼けが、しだいに色褪せてゆくばかりの静寂境であることに気づいた。それは、さながら、地上の命あるものすべてが息をひそめて、今日一日の最後を飾った大夕焼けの終焉に黙礼を捧げているかのような感じだ。この束の間こそが、絶対平和の菩薩境(ぼさつぎやう)であるかに思われた。

おたよりから

朝夕大変しのぎやすくなつて参りました。敬老会には楽しい一日を過ごさせていただき感謝しております。小学生からお手紙を頂き返事を書いたところです。

八月十五日付けの「古いもの新しいもの」大変うれしく読み返しております。變、鏝洋琴、碑、どれを見ても思い出につながるものばかり。同じような思いで読んでいる人も弓削町には何人か居られる筈です。

淡き濃きに瀬戸の海 青草もゆる島々を 学びの窓の友として いとほがらかに いとなごやかに 我等希望の血潮はおどる 弓削校健児等は 担え校旗を と久しぶりに口ずさむことが

伯方 ホームステイした伯高生の体験 記が十月号に載っている。卒業したら絶対英国に行く。イギリスは別の世界だった。

町長選は・リゾート開発は
佐島小の統合は

見聞記

今回一般質問に立ったのは 土居議員・三件、平山議員・十件、前田議員・二件(質問順)でした。 それぞれについては積極的な交流の場をお持ちになることをお勧めします。 平山議員の質問は、 ①町長の次回選挙への出馬の有無について。 ②弓削アイランドリゾート事業の『凍結』という言葉の真意について。 ③リゾート開発推進委員会の存続について。 ④ふるさとへの提言懇談会の活動計画の有無について。 ⑤CATVについて。 ⑥全町公園構想と行政の姿勢について。 ⑦佐島小学校の統合について。 ⑧情報公開制度の導入について、でありました。

次のことが明らかになりました ①町長は出馬する。 ②佐島小学校の統合はない。 ③情報公開制度導入については、公開方法を研究中で、積極的に推進する気である。 ④佐島、宮の下に突堤を築き漁船の係留場を確保してのち佐島漁港の埋め立てを完成させる計画である。 ⑤弓削大橋開通後の島民の交通手段としては、佐島の北を通過して港までのバスルートの計画を進めている。 などでありました。

さて、会議全体を注意深く見聞すれば、いろいろな問題点が明らかになっていくのですが、自分としてはやはり今回も反省材料が多い。 まず、質問が冗長である。内容的にもスケールが小さく

脚本・演出 倉本 聰
シンガール
10月15日(日)
18:00開場 18:30開演
会場/ 因島市民会館
自由席 2000円有。会場にて

菊池先生も十五年程前の同窓会にはマンドリンをかかえてお見えになりましたが、其の後の同窓会には体調の都合とかで出席がありませんでした。御壮健であられんことを祈っております。 忘れまじ恩師の思い出 弓削ロジ 本居長世さん、浜根岸太郎さん、二人を讃える碑もあっていい気がするとの結びにありましたが同感です。 議会見聞記は楽しみにしております。(小出)

‘95まなびメッセ因島
芸予文化情報センター開館一周年記念事業
ステイブ・スビルバーグ
シンドラーのリスト
11月4日(土) 上映会
因島市民会館 開場 17:00 開演 18:00
上映協力一人券/1000円(当日1300円) ペア券/1500円(前売りのみ)
●主催 因島映画サークル・上映協力券 因島の各公民館、市民会館

福山のホロコースト記念館長 大塚信さんの講演があります。

伯方 この夏、英国でホームステイした伯高生の体験記が十月号に載っている。卒業したら絶対英国に行く。イギリスは別の世界だった。 因島 十一月から西瀬戸自動車道の本工事ははじまる。 瀬戸田 第六回カーニバルサンセットが十月二十二日に開かれる。雨天決行。午前十時〜午後三時。場所サンセットビーチ(077-1100) ジュウム」が開催された。 尾道 映画「あした」は尾道駅前松竹でロードショー 岩城 NHK番組「ひるどき日本列島」に岩城島が登場。十月十九日に生放送。特産の青いレモンとライムを通して島の風物などが紹介される。



飛ぶ鳥も あらず四方に 音絶えて 大夕焼けの間 褪せゆく時の間 見事な夕焼けであった。今しがた沈んだ日は、濃紫の丹沢の後ろから、金色まじりの赤色を放射して、山際から中ぞらへひろがるうるこ雲を赤赤と燃え立たせていた。 それは、大いなるものの終焉(しゅうえん)を賛嘆させずにはおかない崇高さに満ち、心はおのずから敬虔(けいけん)にみちびかれた。仏教徒が西方に浄土を思い描くのもさこそ思われた。 また、「秋は夕暮れ。夕日のさして山のは(端)いとちかう(近く)なりたるに、からすのねどころ(寝ぐら)へいくとて三つ四つ、二つ三つなど、と(飛)びいそぐさへあはれなり……(枕草子)と、秋の夕暮れの情趣を賛美した清少納言(せいしやうなごん)の心も懐しく思い合われた。――が、ふと、私が今眼前にする夕焼け空には、一羽の鳥も飛ばず、街道の騒音も伝わらず、ただ、大空を燃え立たせた夕焼けが、しだいに色褪せてゆくばかりの静寂境であることに気づいた。それは、さながら、地上の命あるものすべてが息をひそめて、今日一日の最後を飾った大夕焼けの終焉に黙礼を捧げているかのような感じだ。この束の間こそが、絶対平和の菩薩境(ぼさつぎやう)であるかに思われた。

双眼鏡

弓削通信は最近やわくなつたとのご意見も あります。そうでしょう か?言葉が荒っぽく 用いても内容が危なくなれば 只の臆病。なぜ河豚にあたるか?さあ秋祭り。弓削のは 喧嘩祭り。他人に暴れさせ、 それを見て楽しむのは見物人の 常道だが、見る阿呆の充実 感はおどる阿呆ほどには無い のも常。一度の人生!(平)

弓削通信

発行責任者
愛媛県越智郡弓削町
土生318-2 平山和昭
電話: 0897-77-3072



時間どろろぼうって何?

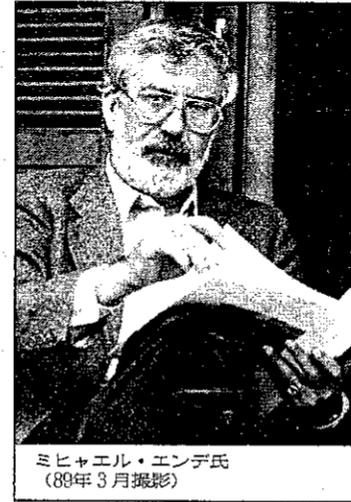
最近の新聞(中国)に稲垣美穂子さんの名を見つけた。私にとっては、かつて憧れのお姫様女優だった。

記事によると、彼女はライフワークにしている親子ミュージカル劇団『目覚時計』の公演「青いガラスとエメラルド」でカエルの女の子を演じるそうだ。

テレビ番組「まんが世界昔話」のプロデューサーでもある夫とこの劇団を創立し、まもなく二十年になる。

あるとき知り合いのドイツ人から「君たちは心に時間を費やすのを忘れてないかい? 想像力や創造性に乏しい今の子供たちが大人になる二十年后に日本は滅びるかもしれないよ」と言われたのが創立のきっかけだったという。

人は昔から嬉しいときや困ったときはみんなが集まり喜びや悩みを分け合ってきた。今の子供たちにはそんな機会がすっかり減ってしまった。だから感動できる舞台で子供に閉じた心を開きたい。たとえ時間がかかっても・・・そう考えてきたそうだ。



ミヒャエル・エンデ氏
(89年3月撮影)

モモ



「時間がかかっても子供の心を開いていきたい」と話す稲垣美穂子(広島市内)
中国新聞より

心に時間を費やすのを忘れてない?

めくくりにごあいさつした校長先生のお言葉。
「君たちにとっての時間どろぼうは、テレビにファミコンにマンガですね」は(申し訳ないが)ただだけません。
テレビやファミコン、マンガが、なぜ子供たちの心をとらえて離さないのでしょうか? もしそれらが今の子供たちに残された自己開放の手段だとすれば? 心を開く時間なのだとすれば?

子供は一日のうち長い時間学校にいます。その中の勉強や運動が心を開くものであってほしいし、それ以上に先生や友達が互いに心を開く相手であってほしい。しかし現実には、子供たちは学校を離れたところで息抜きをしたがっているわけだ。

「心に時間を費やしたい」「心を開くのは時間だ」
なんだか『目覚時計』の理念と重なるけれど、時間どろぼうについては、大人も子供ももっともって考えたい良いテーマだと思えます。

先日、弓削小学校でミヒャエル・エンデ原作の映画「モモ」を見せていただいた。

モモという女の子が「時間どろぼう」を退治するという話で、忙しさに人間らしい生活を忘れ、技術優先、お金がすべてといった現代文明への批判がこもっているのだから、楽しみだった。期待どうりすばらしい作品

小学生の映画会 先生とお母さんと見ました

それが「わかる」ものだ。ただ、残念だったこともある。そのひとつは、充分暗くない部屋での映写。これではせっかくの作品が台無し。設備のせいかな準備のせいかはわからないけど、いずれにしろ子供たちには「最高のもの」を与えようという熱意に欠けていたように思う。もうひとつは、映画会の上

開館15周年記念展 小林和作と美の交遊

梅原龍三郎から須田国太郎まで
●一般600円 ●大学・高校生300円
●小・中学生200円



尾道市立美術館

〒722-1 尾道市尾道土庫町17-19(尾道市公会堂)
TEL.0846(2)32281

11/26(日)までです。

「子どもの権利条約」

第23条～第27条

子どもには健康で幸せな生活が必要です

つてなあに? ⑥



障害を受けた子どもには、特別な援助が必要です

教育、訓練、保健サービス、レクリエーション

保健、栄養、出産の知識、リハビリテーション、環境汚染にも対処



健康な毎日をすごしたい。入院している子どもたちは、きちんとした治療を受けていますか?

児童手当法

社会保障・経済保障



よりよい生活のために国はお金を出さない

みんなが幸せであることが国の未来を大切にすること

子どもの発達のための、生活水準を高めなさい

この欄は労働旬報社刊「WHAT'S? 国連 子どもの権利条約」を下敷きにしています。

★子どもにいつも最高のものを用意するという事は、けっして言いなりになったり贅沢をさせたりとの意味ではないと思います。もちろん最新型のおもちゃや、優秀な家庭教師をあたえることとも違うはず。なにがその子にとって必要で大切なものかを見極めるうえで、一番じゃまなものは「打算」ではないでしょうか。

日本の物価は高いと言われる。初めて中国へ行ったら、生活用品を買いに街にでたら東京より安いのに吃驚した。友人から外国土産だとももらった品が時々日本製であったりする。無遠慮に値段を聞くと日本で買うより安い。日本の物価高には外国婦人も困っているらしい。何か原因が有るのだろうか。日本が島国で資源が乏しいからとも思えない。何か政治の力も関係が有るのだろうか。公共料金など一度上がったら下がることは殆どない。

或る企業が値下げ申請書を出したら却下された話を聞いた。値上げの時は多少頭をおさえて許可したり、申請通り認可となる。

国内消費を増して景気を上げよと政府や企業家は叫ぶが

同じ品が日本では何故高い?

経済大国 不思議に思う

大して効果が上がらぬ。経済大国民といわれる日本人の生活状態は一流の生活ができていのはごく僅かで、多いのは年寄りと病人だけかも知れない。知識が無いので唯々不思議に思うだけだ。この謎を解いてくれるのは政治家であろうが、近頃の政治家は昔の殿様のような感じで国民とは別世界人なのか中流以下が多い庶民へは、選挙の時以外は一向に目を向け手を伸ばす様子はない。

誰かこの物価高を直して庶民生活にも経済大国の実感を与えてくれる人はいないだらうか。

天地人

島田 英好

うか。「貧乏人の子澤山」と言った昔の時代と大差ない。唯、物が色々と増えてはいるが、昔の如く自由のびのびと遊んでいる子供の姿は、弓削のよな田舎にも珍しく、なにかコセコセした感じの子供が増えた。子供の数は別に多くなつた訳では無いのに。テレビなどでみる外国の子供と較べて見ると可愛想な気がする。

「可愛い子には旅をさせ」ともいう。暮らして、育て方も変えねばなるまい。

物価高を嘆くだけでは始まらぬ。果たして日本は世界の一等国だといって安閑として居る良いのだらうか。

窮すれば通ず、絞れば出てくるひとの知恵

イベントは、実行の際、各種アイデアが豊富であるほど良い結果を産むであろうことは想像に難くないが、アイデアをいかにして手にするか。たまたま手近にいい例があるので考えてみたい。

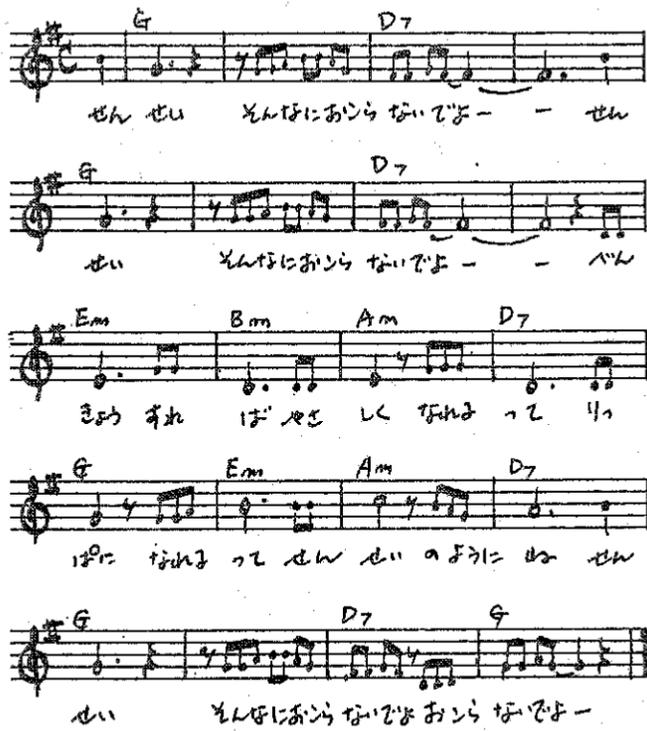
たとえば『ふるさと』のついでに『本居長世・顕彰碑除幕式』および記念コンサートのポスターについては次のようなぐあいだ。

これだけ町が力を入れているのだからきつと子供たちの手作りのものでもでてくるの

じゃないかと期待しきりだった。町展を見てもわかるように子供たちは絵がうまい。おとなの発想にはないポスターがあふれていた。まさしく創作者・長世にふさわしい。一緒にやるのだという一体感も芽生えたかも知れないし、思い出もちがうことだらう。町展といえは年々盛り上がりにかけてくる。曲り角に來ているとも言えるが、ひとつこころで思い切ったアイデア大募集したらどうだらう。

僕の先生

たかはし 頼/曲



先生そんなに怒らないでよ
先生そんなに怒らないでよ
勉強すればやさしくなれるって
りっぱになれるって
先生のようにね
先生そんなに怒らないでよ
怒らないでよ

先生僕をなぐらないでよ
先生僕をなぐらないでよ
ほんのちよっぴり
ふざけていたんだ
でも心の中では
あやまっていたんだ
先生僕をなぐらないでよ
なぐらないでよ

お母さんそんなに急がないでよ
お母さんそんなに急がないでよ
もっとゆっくり歩いてゆこうよ
急ぎすぎては息が切れるもの
お母さんそんなに急がないでよ
急がないでよ

お父さん僕とお話してよ
お父さん僕とお話してよ
お父さんの子どもだもの
悪い子じゃないから
僕を信じてよきつときつとだよ
お父さん僕とお話してよ
お話してよ

先生僕を殺さないでよ
先生僕を殺さないでよ
ミサイルが僕たちの
命をねらってるって
先生平和のためにたたかって
先生僕を殺さないでよ
殺さないでよ
殺さないでよ
殺さないでよ

因島おやこ劇場 フォーク TEL 2-4166

たかはし 頼コンサート

第21回例会



11月22日(水)
小学生例会
土生公民館 6:30~

11月23日(木)
幼児例会
「おかしなオ菓子」
本居の里交流館 11:00~

11月24日(金)
高学年例会
土生公民館 6:30~

僕の先生 (たかはし 頼の歌、4世に、こまごりの歌など)
おとうさん、おかあさんに聞いてもらいたくて書いた曲。
この曲を聞きながら涙を流してはいるおかあさんに出会う。
「おかあさんそんなに急がないでよ」「ほんのちよっぴり
ふざけていたんだ。でも心の中ではあやまっていたんだ」
心の中をみようとしたい大人たち。口では言えない言葉
葉で表せたいことと時代のちがひがある。その事と大人
はわかってあげなければ。大人もからこ子どもだった。
子どもはからこ一度も大人だったことがないのだ。
「先生、僕を殺さないでよ」は僕の個性を殺さない
ことという意味です。と、向われた。そうですよ。
その方がずっといい (94.3)



平山 忠義

一人に かかはる思ひの
ほかはなく 暁 とほき
鶏のこゑきく

編集子から「たまにはロマチックな恋歌を」との注文があったが、すでに枯れすぎ、艶めく音は立てようもない。そこで、かなりの旧作の埃をはたいて、もの思わしげな一首でお目をけがす。

万葉集では恋を孤悲(こひ)と表記する歌がかなりある。恋の心理は、相手を求めて今の孤独を悲しむ心である。万葉びとの用字法は、なかなか深く鋭い。

さて、提示の一首は、ひとりの人を遙かに偲んで、眠られずにいる明け方に、まるで遙かな人が呼んでいるかのような、遠い鶏の声を耳にしている、というほどの意味。

「一人」は「大切な一人」の意で、それは親・子・伴侶・恋人……と、誰にでも当てはまるが、そこは一首全体のムードが決めてくれよう。

暁(あかとき) 鶏(かけ) など、古代の読み方をしてあるのは、明け方の茫漠とした感じと、その時の鶏の音が遠い世から呼んでいるような遙けさであったのを言葉の響きに乘せたかったからである。

特に鶏は、「天の岩戸」の神話に「常世の長鳴鳥」ところよのながなきどり」と呼ばれて登場し、悠久性を表わしている。ここは、こころでも、古語で詠(よ)み、一首を遙かな感じに包む必要があった。

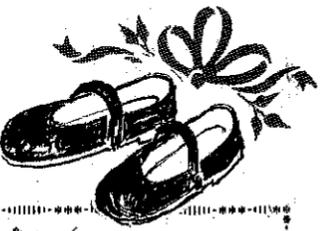
双眼鏡

因島フラワー祭りでのこと。巨大な風船人形の胎内で十数人の子供たちが、おもいっきり飛んだり跳ねたり暴れている。嬌声をあげ、喜色満面だ。外では数十人の子が温和しく順番を待っている。子どもが喜ぶ姿を見るのは楽しいもの。だがあの喜びようを見たときは哀しかった。

なんだか子どもたちは日常生活の中では本来あるべき姿を押し込まれてるんじゃないか。杞憂ならよい。遊具もなくただっぴりだけの芝生で、ところどころ木陰もある、そんな「みんなの広場」がのぞまれている。

弓削通信

発行責任者
愛媛県越智郡弓削町
土生318-2 平山和昭
電話：0897-77-3072



あたらしいな赤い靴

本居長世記念コンサートでひとときわしびれたのは、豊橋市から来られた女性コーラス、『銀の笛』。長世の歌が好きで歌い広めたいという仲間だそうだが、すてきな歌いっぷりだった。長世作品の素晴らしさは、彼女達によって、日本中で再確認されるでしょう。初めて本居長世を知った気がします。弓削にもこんなサークルがあったらいいですね。●あたらしいな『赤い靴』、歌好きみんなが集まって奇麗にハモる『赤い靴』おれたち劇団『赤い靴』、子どもに夢を、おとなに愛を、語ってきかせる『赤い靴』。

第3次弓削町総合計画 基本計画第1章

ふれあい、やすらぎ、思いやりのあるまちづくり

★ 心のお布施

「わざわざ各地から議員を集めて聞かすほどの話かや？」十月二十四日、雨天。今治市民会館で開催された『越智郡町村議会議員・事務局員研修会』に出席し、講師の大澤自聚先生(別格本山・西山興隆寺)の講演『共に生きる』を聞いたときの感想だった。

しかし旬日を経ずしてその時の話の断片が色々思い起こされてくる。どうも気になるので録音を取り出し、もういっぺん聞いてみた。自分がひどい思い違いをしていたのに気がついた。氏はいろいろな例話を次々披露して、共に生きるというのは心のお布施、つまり「共に生きる心のもちよう」が大切、と仏教者らしい説法。(はなしは実に面白いのでテープの貸出しをします)

★ やさしさの出し惜しみ

目まぐるしく価値観が変わる

弓削町主催のイベントにふり

『共に生きる』心もよう

時代にあっても変わらないのは人がいて、その人々は地球というたった一つの入れ物の中で、共に生きていかざるを得ない現実。その現実には、あなまも、わたしも、幸福になりましようと考えねば、とうてい人のよく生きるどころとはなりえない。つねに「共生」の思想が、政治にかかわる人間の根底になれば、つとめを全うすることなど覚束ないですぞと、述べたかったに違いない。

取り立てて言うほどのことでもない、このあたりまえのことが、実は日常生活の場ではいかに忘れられているかを思い出させていただいた。価値ある研修会だったというべきだろう。

真の意味でのやさしさが求められている時代なのに、我々はやもすると、やさしさを出し惜しみするのである。ケチであるばかりでなく誤解もしているのだ。言葉の意味を知るのに辞書では役に立たないことのほうが多い事実にも、もっともっと注目したいものだ。

★ 弓削小学校校歌

さて、そういう目でみると現在の弓削町の行政の姿勢には、近い未来の高齢社会に向けての、やさしさの誤解や、出し惜しみが無いだろうか？日頃見聞きするハテナ？と思えることにもう少し注意深くなるう。それを「意見」として昇華させる努力をしよう。共に痛みを伴うだろうが、それをすることによってのみ、未来にたいして、そして過去に対して責任が果たせてくると思うからだ。

弓削通信流のやさしさ？(とても心の布施とは言えないが…)最近あったひとつの事例を紹介しよう。

さる十一月十九日、弓削小学校校歌を作詞作曲した本居長世を記念する事業として長世顕彰碑の除幕式、つづく記念コンサートは大方の記憶に新しい。やや長きに過ぎたきらいはあるがサービスピリットは、精神旺盛と理解して、まずは上出来だった。子ども達のために、おとなが汗みづくにならしている姿を見せあうこともすばらしい。

★ 菊池富一郎先生

この会場に一組の老夫婦の姿があった。菊池 富一郎氏(八五歳)御夫妻。病後で足の不自由な妻と高齢でやや目が不自由にならってきた夫が手に手を取りあって、はるばる宇和島からやってきた。

菊池氏は校歌制定・発表時現職の教師として立ち会われた、たぶん最後の生き残りのかたで、しかもこの校歌の存在を金田一春彦氏に最初に伝え、時はやくも歌碑建立を町に提案していたご本人なのである。

事のいきさつは今から十六年ほど前、北宇和郡吉田町で夏期大学に参加された菊池

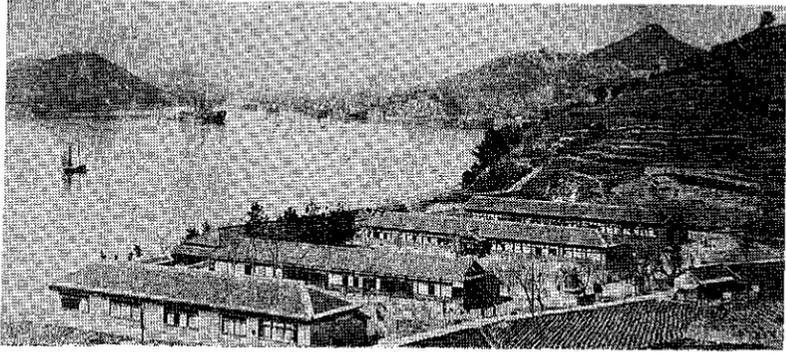
★ 学校という舞台

さて、その日、おふたりは弓削町から招待されたと思えば不自由の身をおして来町されたのだった。担当者は呼んだ覚えはないという。(事前に政策班長が宇和島まで出向き話し合っている)

まあそれはいいでしょう。しかし、誤解にしろ何にしろ八十路をこえ、弓削小学校、いや弓削町民がお世話になつたご本人が目の前にいらして、町長や担当者は事情も背景も知っている。そんな場合ふつうならどうする？

まずねんごろにねぎらい、非礼を詫び、改めて正式にご招待すべきではなかったか？お二人のご来町を、たとえ僅かな時間でもさいて町民に紹介すべきではなかったか？

そぶりも見せなかった。たった十秒のやさしさを出し惜しむこの酷薄さはいったいどうしたことだろうか？学校におけるいじめの最たるものは、わけのわからない「無視」だという。それを学校という舞台で町を代表するひと達がやってみせたのだ。むしろご立派と言わなければ、よもやあの程度のイベントがあがっていたとは思えぬ。形で見えた行政の姿勢と言うほかはないだろう。



▶ 昭和初期の学校全景(弓削町誌より)このたまたまの出来事の中で弓削小学校は生まれた。



▶ 菊池富一郎先生ご夫妻を囲んで教え子の方々。話は六十余年前のなつかしい小学生時代。

本年最後の定例議会は十二月十五日午前9時からです。

【初めての陳情】

県議会及び国会陳情に行ってきた。以下簡単に報告します。

行程は別表のとおり。ただし松山での待機時間が長すぎる事態になったので、すばやい議長判断で二時間繰り上げて十二時発の機に変更。日程は翌日の予定を前倒して消化することにし、これが次の日の余裕をうみ貴重な体験をすることになった。

県議会では先田通夫県議と小田慶幸議長に面会し、

① 上高架橋第2橋の早期着工の推進、および

② 架橋完成までは住民の交通手段である船舶航路の廃止はおこなわないよう慎重に取り扱ってほしい。

③ 今回の陳情は、このたび改選された町議の表敬も兼ねている、以上3点の陳情目的を議長が説明した。それに対して県側からは、「趣旨は了解した。今後も鋭意努力」する旨の回答があった。

東京に着くと投宿前に地元選挙区議員の訪問を開始。越智伊平、村上誠一郎・両衆院議員と野間起、塩崎恭久・両参院議員の事務所に向かった。

結果的には野間議員を除いてご当人には面会できず、秘書に伝言を依頼してひきあげた。

夜はその日の最後の行事である懇談会を町長とも落ち合せて開催。越智、村上・野間、塩崎(代理) 各氏に臨席願ひ、時局政局について懇談。約二時間で終了。

翌三十日、野間議員に紹介議員になっていただき、参院『宗教法人等に関する特別委員会』傍聴に行く。

先日来、ヤジに乱闘、参院の審議に衆院新進党議員が押しかけ、傍聴席からヤジの応酬をして審議妨害するなど、与野党攻防が繰り広げられる中での傍聴である。

前略

富良野へ帰った。雪でいた。8月15日富良野を巻、284日由足かけ4ヶ月の長い長い旅でした。素晴らしい土産との無数の出会いのあった旅でした。久しぶりに帰った。谷間は雪の中にしんと清潔に眠り、ハンググライダーの飛行の音も聞こえませんでした。彼等は僕らの旅の由、和やかに話を聞いてくれたようです。

僕らの「ニギル」公演を身を持って体験して下った皆々様。本当に本当にありがとうございました。

丸太の書き置いた日記の小さな断片を皆様に贈ります。

一人デモイニタ、君カイトクシタカラ、タカラホクタハ希望ヲ持ツヨ。

1995年初冬 富良野塾 倉本 聡



議 会 見 聞 記

傍聴しての感想は、さすが言論の府とされる国会。かくも無礼、かつ野卑、かつ下劣な罵詈雑言でもまかり通る。憎しみと侮蔑の言葉を吐き散らすこれら老若男女の怪獣を前にしては、さこそいじめっ子どもの手本ごさんなれだ。ヤクザの喧嘩なぞかわゆいもの。引き合いに出したらかえって失礼に当たる。これが国会議員かア。生の舞台を見てみると、おもわずつられてヤジりたくなり、困った。

案内してくださった野間議員の秘書によれば、傍聴席を金バッジが占拠するような委員会にはめったに出会えませんよ、とのこと。昼食を挟んで午後約2時間ほど見物。さすがに辟易してきたので退場。夕方六時に集合するまで自己研修に移る。国会図書館を覗き新宿まで足を伸ばして新都庁を見学、あわせ地下道に延々と連なるホームレスのダンボールハウスも観察して帰宿した。

最後の豪華夕食をいただくこと約二時間。同僚としてかなり突っ込んだ話もできた。

今回の収穫はなんといっても質問のノウハウ。ヤジとダンボールハウス、高級ホテル、そして議員だけ話しかけてみて、誰も今のままでいいと思ってるわけでもないこともわかった。今後はまたちがった動きも出てくることだろう。会計報告は未整理なので別の機会に。

町議会議員・平山和昭・記

平成7年陳情行程表

11月29日(水) 愛媛県議会陳情及び地元選出国会議員との懇談
11月30日(木) 地元選出国会議員陳情及び国会見学(参議院)

11月29日(水)	07:30 弓削発 高尾船 08:20 今治港 08:40 今治駅 09:10 松山駅 09:40 東庁 09:50 県庁
10時00分~愛媛県議会陳情	
県庁	14:45 空港発 羽田空港 15:05 ANA-52
17時40分	ホテル・ニューオオクニ・本館(泊) モリス 電話(03)3265-1111
懇談	18時30・ニューオオクニ・本館・15階・雲海
11月30日(木)	ホテル 10:00 議員会館・国会見学・昼食 昼食後一自己研修といたしますが、江戸東京村見学を考えています。 夕食については、相談したいと思っております。
12月01日(金)	10:00 浜松町 14:00 羽田発 15:25 新広島着 16:30 三原港 16:50 佐島・弓削 17:20 弓削海上タクシー

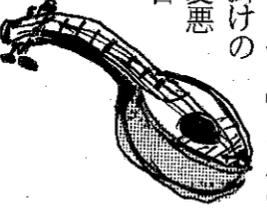
先生八五歳 生徒七五歳

春去り、夏去り、秋も足早に寒さ丈けを残して去ろうとしています。

十八日十五時三十七分、菊池先生をお迎えしました。

先生八十五才、奥様八十才生徒七十五才。お年を召された先生は一回り小さくなられた感じでしたが、十五年前の同窓会に思いを走らせながら重ねた年月を感じました。

マンドリンのお話をしましたら、このたびもマンドリンをもっていくと聞かなかつたのを奥様が「そんなもの持って旅はできません」と止めたため、出掛けの機嫌が大変悪かったと言ふ事でした。



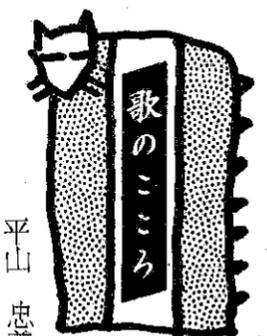
八月十五日、十月十五日付けの弓削通信と平山さんから頂いたホ調とハ調の弓削小学校校歌のテープを持参し、先生と一緒に歌い、話に花を咲かせました。

浜根岸太郎さんのことも大変よく覚えておられ、ピアノの廃棄処分は大変惜しまれ、立派な記念品をなげ捨てたんだらうと残念がられておりました。夕食後のひと時を奥様と二人で弓削通信を広げ、思い出を語り、明日十九日の式に夢を走らせながら弓削島の夜長を楽しまれたことと思えます。

幸せいっぱいので好い思ひ出が出来ました。

(佐島 小出ハナ子)

たまもの 戦後五十年の命なり 磨きこぼしの米も余さず拾ふ



平山 忠義

双眼鏡

「歌の心」は今回おしまいですが、いろいろな作歌のスタイルがあります。ご参考になりましたでしょうか？来年からは「サウンド・ハウス」です。音楽がテーマのコラムですが音楽はからっきしという私にとっては、やっとめぐりあえた機会です。楽しみで、それでは、よいお年を！(平)

因島

因島おやこ劇場の事務局長の囁地玲子さんは「本当はどうかかな？」のりー思考を推奨している。

瀬戸田

今月は眞さんの教育論として、「やさしさ」と「ぬくもり」を求めて大人が奮闘努力しようという教育委員会が奮闘努力しようという教育委員会のメッセージを掲載。

尾道

見直されていた駅前再開発計画は、海の見える憩いの場にするような案にまとまった。二十一世紀の尾道の玄関になるように。

大三島

島部消防初の救急救命士に宮浦の菅 満孝消防士長がなった。今後、応急処置設備の充実と医療機関との連携が課題とされる。

今治

新潟水俣病の被害者家族を、阿賀野川とともに描いたドキュメント映画「阿賀に生きる」が市民による上映実行委員会の手で上映された。